大正八年三月一日發行　大正八年二月二十六日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

Y.W.C.A.

基督教女子青年會

三月號



第十六卷第三號

女子青年界目次

大正八年三月號

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

宮内省
各宮殿下 御買上八回

桑港萬國大博覽會 銀牌受領

於博覽會共進會 金、銀、銅牌廿餘回受賞

甲斐國產

御申越次第商品目錄進呈

水晶細工品

印篆刻
眼鏡一式
軸掛
裝身具
床置物
珠數

指環
中差
簪
櫛
根掛
エリ止
帶メ
守玉
ヒン
カフス釦

印傳袋物

二ッ折札入
弗入
財布
莨入
手提
手袋
スクールバック

共紐
叺
御殿持
巻莨入
火の用心
文人持

水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉強仕り
御好みに應じ如何樣にも確實に御調進可申上候

商標

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町

電話百〇二番

振替口座東京五〇六四番

前青三

FURS
D. KOMEYA
PROP. C. YAMAOKA,
(TANNER)

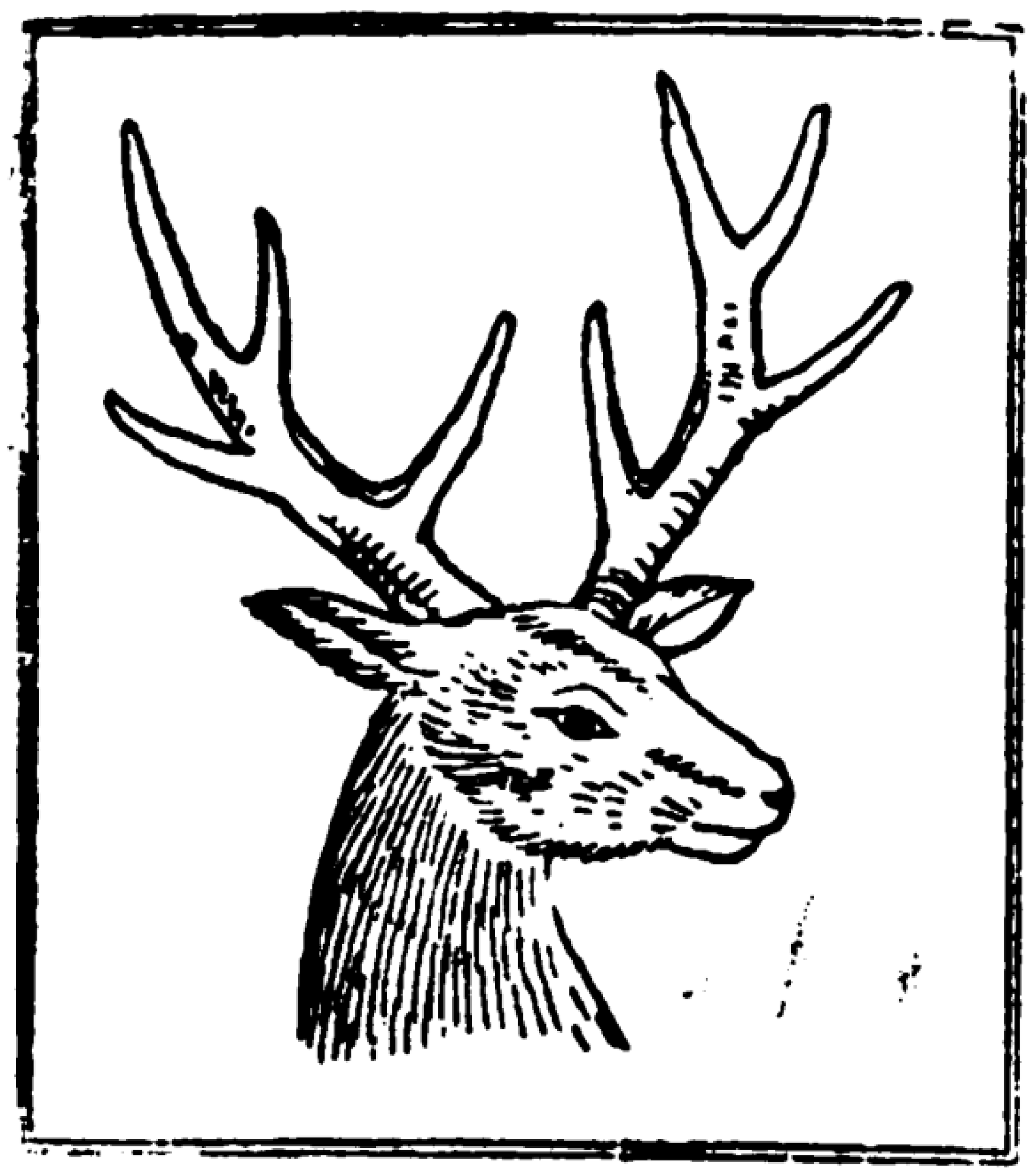
Furs, Coats, Stoles, Muffs, Brocade Linings, Slippers, Feathers, and Water-color pictures.

No. 14, Benten-dori, Itchome, Yokohama.
Tel. 3370.

PICTURE DEPT.
No. 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama.

BRANCH:
Tel. Shimbashi 2179.
No. 1, Minamikinroku-cho, Kyobashi,
Near Shimbashi, Tokyo.

MAIN STORE-NIKKO
Summer Branch
Karuizawa



貴婦人令孃用

毛皮コート 襟巻 マフ スリッパー 羽毛
絹裏地 水彩畫類 其他毛皮製品種々

何れも最新流行形いろ／＼取揃へてありますから 多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします。

横濱市辨天通一丁目十四番地
コメヤ號 山岡商店 電話長三三七〇番

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號 山岡商店 電話新橋二一七九

夏期出張所 信州輕井澤

MARUICHIYA
Manufacturer of and Dealer in
Silk goods, Paper wares and Stationeries,

Wholesale and Retail

Fancy goods department:
No. 8, Benten-dori.
Stationery Department:
No. 9, Benten-dori.
Tel. 4751.

美術雜貨製造販賣
丸一屋
横濱辨天通一ノ八、九番地
電話四七五一

EVERYTHING PHOTOGRAPHY

EXPERT KODAK FINISHER
S. MIKADO PHOTO CO
29, Unemecho Kyobashiku
TOKYO JAPAN.
Tel No. 2272. Shimbashi

寫眞器械材料販賣
出寫併寫眞一般應需
美門商會
東京市京橋區采女町
廿九番地歌舞伎座前
電話新橋二二七二番
振替東京一九四九四番

大阪市外鶴橋町（天王寺勝山通東方）
文部大臣指定

私立プール女學校

◎本校卒業生は明治四十二年四月文部大臣より高等女學校卒業生と同等以上の學力ある者と指定せられ專門學校（女子大學、女高師、音樂學校等）への無試入學資格を有す◎本科は修業年限五箇年にして學科課程は五年程度高等女學校と同じく且英語と音樂とに特色あり◎英語科生には一週十三時間、主として英人三人の英國婦人及邦人二人之を教授す◎教師は英人三人日人十三人、各專門の學識ありて懇切に教授す◎本校は高燥開濶の土地三千坪に壯麗適當なる校舍を新築し、寄宿舍には六十名の生徒を收容し數名の女教師懇切に監督指導す◎規則書入學案內書入用者は郵券貳錢を添へ申込むべし。

◎生徒募集

私立 女子學院

◯東京麹町區上二番町三十三　電番五四九五

◯一年生　七十名　各級補缺若干名

◯出願期日　三月末日迄

◯入學試驗　四月七日午前九時

但前學校ノ成績ニヨリテ試驗ヲ要セズ

◯寄宿舍ハ家庭的ニシテ內外ノ教師同居ニテ懇切ニ指導ス

一、銀器類

一、貴金屬寶石細工品一切

外國人交際用贈答用品充實完備
內地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



◯意匠、技巧優良
◯價格低廉
◯信用安全
◯取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通二丁目拾貳番地

辨天商會

前付六

女子青年界　第十六巻　三月號　大正八年三月一日發行

會説

日本婦人の世界評

河井道子

日本の名物

或人の言葉に「英國は世界に翻へる其國旗で知られ、支那は其勞働者で知られ、日本は到る處其醜業婦で知られる」とあります。我々は是を聞流しにして相濟みますか、又此は過酷な言葉、侮辱する言葉として抗議を申込む餘地があると申されますか、確に云はるゝ儘に此情ない批評に對して否定する事が出來ないのであります。かく定價されてゐる日本が如何に武勇に、學識に、外交に、實業に卓絶したる選士を外國に派遣して國光を輝かさんとしても、日本の婦人が世界の玩弄物となりをり、國民一般が平氣で痛痒を感ぜぬ中は、決して文明國と同等の取扱は衷心からされません。

女子教育

只此の賤業婦のみに止まらず、日本婦人の教育が、今日の樣に低調子で、其で滿足して居る男女が多數ならば、歐米諸國の眞實の敬意は受け得らるゝものでありません。永年日本女子教育に一文の報酬なくして献身的に盡された外國婦人が、眼に涙を湛へて、云はるゝには「今度講和會議に於て、日本は如何に

世界の人より評價されるかと思ふと實に悲しくなる。第一、日本の婦人の位置より推して此國が判斷されるならば、何處に立つであらうか。彼等は必らずかく云ふであらう「日本の女子は獨逸の女子位の敎育も位置もない、遙に劣つて居る」。是點から割出して此國は一等國の中に算へられ通し得るかしらと將來を憂慮る」との事であります。如斯外人が却て我々のため心を痛めてゐるに、我々自身達は敎育などに熱心でなく、其が國家にかゝる大關係をきたすなど夢にも思はぬとは實に恥入る次第であります。

高等女學校が關の山

然るに女子高等敎育などゝ申と、不必要、有害無益を唱へるのは決して無敎育連に限りません。否其を力說して家庭や、親類知己間に娘の敎育を差止めるに大勢力を持つて居るのは大學出身の男子などに多いのは、何とした矛盾でありましよう。又女子自らも高等女學卒業すれば富士登山で此より高い山がない様な考をもち、大滿足で居るのが多數であります。若し家が不如意であるとか、家庭に於て事情があるならば兎も角、家には金も澤山にあり、親も自由に勉强せよと申のに、自分は只管身を飾る事のみに氣を取られ、花の顔の短期なるを忘れて、心を磨くなどには寸暇も與へずして、無意識に其日を送る女子は、國の價値を世界の標準より引下すものであります。彼等は決して賤業婦を嗤ふ事が出來ません、惡事をなして獄屋に入れられし婦人等を輕蔑する事が出來ません。彼等も亦國の光を被ふ村雲であります。かゝる女子を喜ぶ男子は不義不德はなしとしても、又如何に國家の富を増し、政府のために活動したとて愛國者ではありません。何故彼等は女子敎育に贊成しませんかと申せば、女が餘り事物に瞭然とした意識を持ちますと、自分達の思ふ樣にいかぬとの卑しむべき利己主義から來て居ります。しかし女を低く見て居る男子は、己の卑さと下賤とを表はして居ります。

實用的

女に教育をさせると生意氣になるとの古臭い說は最早時勢後れとなつたため、今度は言葉を變へて、家庭を持つ女にそんなに教育か要るものかと申のが當世の通用語らしく思はれます。

日本人は實用的で、理想的でないと評されてゐますが、宗教を信ずるのでも此は眞理ゆゑと申のでなく、樂になる、安心が出來る、不品行が直るなど只實用的の事から這入る者が大多數であるのですから、況して教育は直に習得せし全部を活用しなくては役に立たぬと思ふのも無理はありません、しかし男子だとて中學、大學で習得された事が一部始終役に立つて、毎日〳〵其御利益を見て居ると云ふ事は決してありますまい。若し實用的じやないとの點から男子には高等教育は不必要だと叫んだら、何と愚な事でありましよう。勿論男子だとて誰でもかでも高等學校、専門學校、大學の教育を受け得らるべきではありません、特別幸運兒に授かる天佑とでも申ましよう。若し身體も壯健、頭腦も明断で、金もあり、自由でもあり一族が大學に習ふを大奬勵すると云ふ青年が、高等教育は必要がないとて其機會を放棄して日々成す事もなくブラ〳〵して居たら、其でよいと申人はありますまい。或は己自身是非とも致度い、親もやらせたいと云ふ教育を他の者が差止める樣な場合が男子にあつたらば、今日は其愚を嗤はぬ者は、愚人のみでありましよう。高等教育とは學問は勿論ですが、其丈とおもうからして女には不必要だ、御飯を炊くにはなくてよしと申樣になるのです。女から申すと、高等教育は物事の是非を公平に分別ずるの力を授け、見聞と共に同情を廣くし、向上心を養ひ、不時の禍福に遇ひても此に處する法を案じ出す創造力を磨くのであります。元より高等教育があると申者の中にも、不品行の男子が多いのですが、女より論ずるならば無教育の女が世間一般にありがちの罪惡をよけ犯して居ります醜業婦人に高等小學校丈卒業した者がいかほどありましよう、極く少數であります。彼等は事の善惡を辨へる丈教へられないし、見聞も狹いのです。況して惡に抵抗するなどの力が何處にありませう。此等から推すと、教育はす

べきものだとの道理も明になります。同じ茶をくむで出すのでも教育のある婦人が出してくれるのと、無教育の女の出して呉れるのと氣分が違ふと佛國の戰地にある兵士が書いて居りますが、其が教育の眞價でありませう。

今回大戰爭で女子の教育、高等教育が必要だと云ふことは、充分立證されて居るにも拘らず、斯る古い事を繰返さねばならぬ我々の境遇は悲しむ可きものであります。而かも日本は賤業婦で世界に冠たるものだと云はれて居ながら、いかで他國に向ひ自由入國を許せとか人種別を廢せとか主張が出來ませう

支那勞働者

上海や浦鹽に來て一番に氣の付くものは、汚くるしい風をした多勢の支那の苦力です、彼等は虚言を何とも思はぬ、金には目がないと申しますが兎も角牛馬と同樣に荷を運び、或は普通の人の嫌がる仕事などはしますが、皆正當な勞働をして居るのです、勞働を以て世界に知れて居るのと、醜業を以て知れて居るのと何れが賤む可きかは問ふ迄もありますまい。私共は決して支那を馬鹿には出來ません。日本の女は支那の女より賤しい者と見られて居る事を忘れてはなりませぬ。

教育と宗教

斯く申すと若き姉妹方は、それなら私共は何うしたらばよいのですかとの質問が起りませう、勿論これは高等女學校生徒方の直接問題ではありませんが、皆樣も日本の臣民で愛國者であるならば、教育と申す切なる事を考へて、若し機會があり、事情が許すならば、高等女學校卒業後は進んで高等の教育をお受けなさい。そうして皆樣が三十四十におなりの頃には日本婦人の地位を上げて、今日の侮辱されて居るのを取消して下さいと私共は願ふのであります、これには然し只教育丈では六ケ敷、教育に神を信仰すると云ふ事が隨加されねと日本婦人は眞化することは出來ぬと思ひます。

尚又既に相當の年輩には一家の主婦或は教育の指導者、社會に地位ある婦人方は眞面目に此問題を考へ、子女、子弟、後進者の教育と宗教とに留意され私共の時代より彼等の時代が幾層倍も美しいものである樣、今日より其が爲貴き犧牲をお拂ひ下さい、又日本婦人の賤業に對して、輿論を呼起す樣御援助あらんことを祈ります。(浦潮にて)

講演

女子と高等教育

安井哲子 談

吾々の生活には一つの目的がなくてはならぬ。言葉をかへて云へば吾々は何をする爲に生きるかと云ふ根本的の目的が瞭然して居なければ、私共が每日衣食したり、其他種々の仕事をして居つても、意味のない機械的のものとなつてしまふ。例へば自分の家に居つて家事をするのでも、或は外に出て何か働くにしても、其働きに何か一つ瞭然した目的があれば、それを遂げる爲に最も賢い方法も考へねばならず、又其目的を充分に實現せんとする努力をも伴つて來るので、極めて詰らぬ仕事にでも希望があり、又研究心をも伴ふのでありますが、さもない時はそれが全く機械的の仕事となつて生命がなくなるのであります。女學校に通學する位の年齡の方々にも、勿論自分の勉强に對する目的はありませうし、又每日の家庭並に學校生活に於て正しい指導があるならば、自然に生活の正しい目的を見出し、比較的簡單の生活の中にも深い意味を出見す事が出來ますが、女學校だけの生活では、其年齡から云ふても、知識の程度から云ふても、又其接觸する範圍から云ふても、未だ人生に於ける深いあるものを味つて生活の目的を明に意識する事か出來難いのみならず、吾々の每日の生活に於て出會ふ種々の問題を正しく解決するに其材料が乏しいのみならず、時としては其諸問題を深く考究しやうと試みる事さへもし得ない場合が多いのであります。例へば吾々の家庭生活と云ふものを眞に進歩させ又幸福にするには、多くの思

慮を要します。然るに高等女學校を卒業した位の年齡の方では勿論例外もありませうが、眞に家庭生活を如何にすれば向上させ得るかと云ふ問題を眞面目に考へるには、力の足りない者が多いのであります。よしや其希望があつても如何にして其希望を滿たす可きかと云ふ適當な手段を見出し得ない場合も澤山にあります。殊に女子が結婚してそこに夫婦間の關係とか或は舅姑との關係とか、或は親子の關係を生じた場合に、女子が其相手を理解し、又其れと接觸する上に生ずる種々なる困難を切拔けるには、充分なる精神的訓練又人々と互に心から相連結する深き或物を握らねばなりません。此等は高等女學校卒業後尚一層學問をし、且又廣く社會に觸れて收得すべきものであります。

殊に今後に於ける吾々の生活は啻に家族や學校や又社會のみの關係では足りないのであります。自分達とは境遇も違ひ、言語も違ひ、習慣も違ひ、歷史も異にして居る世界の人とも精神的に或は人道的に或は實際生活上に相連絡して、吾々の生活を營まねばならなくなつて來たのであります。斯く從來よりも擴大された、又從來よりも深く、又向上された生活を實現して行くと云ふことが、吾々の文明國民としての生活であるならば、眞に之を實現して行くと云ふ事は到底女學校程度位の教育では、不充分であります。互に理解し、互に共鳴しない生活程淋しい生活はありませぬ。若し男女の智識の程度が非常に懸隔して居つて其處に理解を缺き、同情をなす事が出來ないならば、家庭に於ける兄弟姉妹の關係も夫婦間の關係も、社會に於ける男女互の交際に於ても非常に淋しい感があると思ひます。それが今度國と國との關係でも同じ事であつて、文明の程度の非常に違つた國と國とは互に理解し、互に提携する事が不可能であります。其處で家庭や社會に於ける眞の平和、眞の同盟と云ふものは、人間と人間との心の接觸、其間の理解、其間の同情に基づいたものでなければならぬと思ふのであります。現今國際同盟

の會議が開かれて居つて、大國や小國の代表者が熱心に世界的平和の實現されん事を希望されて居る樣でありますけれども、政治上の問題は種々複雑した事情があつて、世界に於ける眞の平和を實現する事が或は困難かも知れません。併し人間と人間との精神的結合と云ふものは眞に世界に平和を持來す爲に最も有力なものであると信じます。斯く大切な希望に充てる時期に於いて、吾々女子が大に奮起して、先第一に女子の任務であると自覺する所の平和の使命を其家庭と其社會と又世界とに於て果すやうに努め度と思ふのであります。斯る大きく尊い人生の目的に向つて奮闘しやうとします時には、吾々のやうな小さな者にも一種の希望を生ずるものであつて、之に對する喜悦は到底只家庭内にあつて、己れの衣食住の滿足のみを目的とする生活とは比較することの出來ないものであります。希はくは將來に富んで居る有望の吾國の青年女子が奮つて其使命を全うする爲に事情の許す限り進んで高等の教育を受けられん事を切望する次第であります。

東京基督教女子青年會

慈恵救濟ノ事ニ關シ從來盡力セラルヽ所尠カラス本府ハ益々其ノ發達ヲ希望シ茲ニ事業助成トシテ金四拾圓ヲ交付ス仍テ左記費途ノ内ニ加ヘラルベシ

大正八年二月一日

東京府知事法學博士井上友一 印

記

一物價騰貴ニ依ル豫算超過額補塡

□遺愛女學校役員改選

會長 長崎利代　副會長 猿川秀
會計 藤野よし　顧問 成澤たい
記錄書記 福永登世　通信書記 山本靜子

聖書の眞價

ウヰリアムス博士

我は一つの古き書を讀むことの價値と云ふ事を感じた儘にお話しするのを嬉しく思ふ。今私は大なる人格の奉仕として知れる事をお話する。この書は基督敎信者が聖書と呼ぶ一卷であつて、書物中の書物である。これは最も讀み易く、最も面白きものであるから私はこの書を古書と云ひたい。何故日本の婦人もこの聖書を親しんで再讀されるかと云ふと其處には七つの理由があると思ふ。

一、偉人の歴史

ユダヤ人は世界の大きい眼より見る時には決して數に於て大なるものではなかつた。又彼等は屢々輕蔑され、排斥されて居つたが、然し尚彼等は世界の多くの人類に感化を與へたのである。或る一人のユダヤ人が英國の法廷に引出され詰問されし時、その嘲罵に對する答として、「我はユダヤ人なり、汝等の祖先は人食であつたが我の先祖は、神の宮の祭官であつた」と云つた。斯く彼等は他の國人よりも世界に靈的の感化を持つて居つた。

二、美術館

聖書に於て吾々は世界の何れの美術館に於てよりも人物及風景の繪畫を提供する、而かも彼等は凡て靈的のものである。

三、小說的事實の書

一つの恍惚たらしむる話の書である。舊約聖書路得記のナオミとルツの清き愛の如き實に美はしきロマンスである。ナオミの夫は死しルツの夫たるナオミの息子も死したれば、ナオミはまだ年も若き事と

て故鄕モアブの地に歸りて再婚を勸めたるも、彼女は荒寥たるモアブの如き地に成長せしも其心馳は淸く尊く憂きも苦さも舊姑と共にせんとて、うら若き女の時代を　姑　に仕へたその物語など實に美しきものである。

四、文學の書

聖書は又文學の書である、詩、論文、書翰、格言等を網羅して居る。詩篇、以賽亞、以西結等各異りたる情趣を味ふことが出來る。又寸鐵人を刺す如き警言もある。

五、單純なる精選せる英語

吾々は聖書の中に最も力ある、簡單なる、精選せる英語を學ぶことが出來る。

六、靈魂不滅に關する明快なる敍述

人若し死せば彼再び生きるであらうか、の問に對しては只聖書の紙面に於てのみ答へられて居るのである。「死は惠の國に導く橋である」と。

七、太古に於ける偉人の傳記

太古に於ける亞細亞的紳士の傳記であつて、彼の敎は婦人や小供に對する取扱ひに基礎を置かれて居る。サマリヤの婦人の如き淪落なる女にも眞に基督により賴む時には之を救ひ給ふた。又四福音書に於て眞の紳士の態度をも學ぶことが出來る。斯くの如く現在の生活の上に與へる聖書の價値は玆に贅言を要さない。（東京青年會英語社交會にての講演の大要）

消息

○ガンター幹事　二月六日西伯利より歸朝

○大谷　廣氏　山口敎會牧師は一月三十日腦出血にて御永眠

○津田梅子先生　目下ドクトル、リード姉宅にて御療養中

○平岩　末子姉　東京女子靑年會に獻身的に盡されし同姉は二月廿四日河上丈太郎氏と御結婚靑山學院內ハリス監督館にて擧式の上神戶市外岩屋十八番に御住居の由將來の御幸福を祈る

○藤浦　初音姉　長谷川敏氏と御結婚神戶敎會にて御擧式の由御祝福を祈る

○永島ヒロ子姉　昨年十一月御子息御敎育の爲一先南米ブラジルより歸朝されし同夫人一日本部を訪ねられ彼地に於ける本邦の賤業婦に對し何か女子靑年會が働を開始する樣訴へらる

衣服改良に就て

志立タキ

此頃日本女子の衣服に就て、種々な議論がある、中にも華美とか、不經濟とか非衞生とか云ふ非難は殊に多く聞く所で、改良服の新案も數々ありますが、實用されて居るのは、未だ餘り見受けませぬ、全體衣服と云ふ物は、着る人の好みに習ふもので衣服の改良が日本で稱へ始められてから最早數年になるのに、餘り實行されてないのは、畢竟、日本人の大多數が現在の衣服を好んで、變更を欲せぬ故と思はれます、改良服の要點は、いづれも、質素、經濟であるのに、此數年、婦人の衣服の柄は、はでになり地質は高價な物を、ざら、に用ひる樣になりました。男子も十年前には婦人に限られてあつた樣な品を着るのが、當前の有樣となりました、日本の日常、生活の萬事が、はで、になり、經濟的のものよりも見付きのきれいな物が喜ばれる傾でありますから衣服も、それに伴つて行くので、今、之を改めるのは社會の風潮に逆行する譯であるから、容易に出來ないのも無理ならぬ事であります。

衣服は氣候、風土に隨つて異るものである、けれども、總じて着る人の好による點が多くあります、好は人々の思想から生ずるものであるから歐米人の衣服を日本人は一口に洋服と云ひますけれども英佛米其他の國々に皆其國特有の風があります、さうして一國の風の中に、又個人の好があつて種々な變化を表はして居る事は、日本服の中にも、はで、やら地味やら、着物の、きこなし帶のしめ方など人に依つて違のあるのと同じであります、英國婦人が多く着る、毛織の「スート」は働くにも、歩行にも、都合がよく、濡れても、傷まず、便利で、持がよくて、あの衣服に飾の少い帽子を戴き、編上げの靴を穿い

て、姿勢正しく歩行して居る樣子は、華美とか浮薄とか、云ふ點は少しもなく、活潑で容儀が整つて居て、英人の性質を表はして居ます、其反對はローマ帝國の滅亡に近づいた時の服裝です、畫で見ても衣服の型と云ひ、人々の態度と云ひ、如何にも惰氣に滿ちて居る樣ですが、其頃の衣服の色は、所謂、目の醒める樣で地質は薄い、べら〳〵した物が多く、耐久、經濟など、云ふ事は考の中に置かれず、只美しく、人の氣を引附ける樣なもので、あつたと云ふ事です、して、見ると衣服と云ふ物は大きく云へば一國の風を表はし、小さく云へば、個人の氣質の一端を示すものであります、併しそれと同時に衣服が人の氣風を變化させる事も考へねばなりませぬ、運動に便利な衣服を着て居れば知らず識らずの中に活潑になり、窮屈な、重いものを着て居れば自然と無精になり、禮裝をして居ると行儀がよくなり、ダラシのない風をして居ると、氣分まで、しまりがなくなるなどは、看易い例であります。

日本の婦人服は、しなやかで、きれいで、裝飾品としては精巧なものですが、總ての點に於て極めて弱い（品がよくなればなる程）物ですから、つかめば、皺がよる、強く引けば破れる、日光にあたれば色がさめる、濡れたら全く用ゐられなくなる物が多いのです、之を着た時は手足を自由に動かすと「なり」が、くづれるから、腕は臂から先だけを動かして、歩行は、チヨコ〳〵あるきにするのは、止むを得ないのです、それが長い習慣になつて、日本人は、女子は手も足もチヨコ〳〵動かすものと思つて居るものですから、偶に自然なあるき方をして、腕も肩から動かす婦人があると、人の驚いて見て、女らしくないと云つて、非難する、全體日本婦人は不活潑であるから、斯んな服裝をするのでしようが、斯んな服裝をするから動けないのでしようか。

若い女子が美を好み、衣服、髮飾に、意を用ひるのを惡いとは云ひませぬ、けれども、流行を極端に持つて行つて、容貌が不自然になる樣な化粧をする

のは、品位を下げるもので、自尊心のある婦人のなすべき事ではありませぬ、素顔を人に見せないのを、婦人の嗜と云つた時代もあつたそうですが、それは一世紀前の談で、如何程、塗つても、生れ就いた、容貌を變へる事は出來ず、刺繡模樣に錦の帶をしめた所で、野に咲く百合の自然の美には及びませぬ、されば、身體の發育を害するのみか、歩行も自由に出來ぬ樣な衣服を着て、鬘を被つた樣な形に髮を結んで何の益がありましよう。

日本の婦人が、衣服の、よからぬ爲めに、受ける損失に氣付いて居る人は大勢あります、殊に女子青年會員中には、日本服の缺點を疾に知つて、改革を望んで居る人々があるのですが未だ實行の時期が至らないのと思ひます、此頃の新聞紙の一面には、衣服の改良、女子の體育などの記事があると次の一面には新發明の化粧品やら、新流行の呉服、雜貨などの廣告があつて、讀むと冷汗の出る樣な文字が並べてあるのを見ると、衣服の改良も、前途遼遠の感がします、けれども、婦人が眞實、衣服の爲めに今まで失つたものは、有形にも無形にも莫大である事を覺り、此まゝでは、今後も人間として受くべき、幸福を受け得ず、達すべき文明の域にも達し得ない、現在が如何に不便、不愉快で、毎日、何程失ひつゝあるかと云ふ事を思つて、自から決する所があるならば、行惱みつゝある、婦人服の改良も案外、速に出來るであらふと思ひます、知識ある婦人の俗論を超越して、決心して、所信を實行する時の一日も速く來る事を私は祈つて居ります。

□日本婦人の着物は實用、衞生、經濟の總てに反して益非實用的に非衞生的に益華美に益本質を誤つて來て居る、而かも是等が着物に於ける流行となつて居るのであるから考へざるを得ない。

由來日本の流行は花柳社會が中心となつてゐる即ち藝妓界の流行を堅實なる社會の婦人が模倣することゝなつてゐるのであるが是が大に誤つたことである、藝妓は媚と外見を飾るべき必要があるから隨分思ひ切つた流行を見せることでもあらうが、堅實なる社會の人々が彼等を模倣するといふのは何事であらう是に於てか日本婦人の流行の中心を是非もつと高尚なもつと經濟的な實用的な所へ移さねばならぬ。(報知新聞之轉載)

日本橋に於ける半日

三谷民子

□三越の四階

生粹の江戸兒の住家である日本橋に約半日を送りました、まづ萬人を吸ひ込む三越に私も吸込まれ、二階三階は素通りをして四階に上りました。私の友人の家に誕生がありましたので其の祝物を探がしに參りました。何か實用的で目先の新しいものをと探してゐると薄い絹で出來た如何にも柔かそうな、私共のザラザラの手で觸れたらきれそうな赤坊專用の小さな蒲團が目につきました。善い物が見當つたと思つてその賣場へ行くと矢張り私と同じ目的であれこれと品定めをして居る袴を着けた、一見女學生らしい五人連の婦人が用捨もなくその蒲團を掻廻はして居りました。(肩上げもなく又袴の色から考へると普通の高等女學校ではなさそうな)飽く迄五人で漁つた揚句淡い紅色のを選びました。賣子は其品物と代金とを以て帳場に行くと、その中の一人先生〳〵と呼ばれて居る先生が氣が變つたと見へて又いろいろ選び始めました、すると帳場から歸つて來た賣子が御取り替へですかと尋ねると、取り替へるかも知れませんよと云ひながら又上に掛つて居るいろ〳〵の色のを引づりおろしましたので、賣子は少し嫌な顏をしますと、あんな嫌な顏をして居るからもつと見てやると云つて散々に見散らしたので、其れを見かねて、男の店員が出て來て又叮嚀にあしらひました、婦人連は最後に白色のを撰び立去りました、私はこれを眤と見て居つてこの婦人連而かも教育事業に身を委ね、又其教育を受けつゝある婦人なるに、同じ女性である店員に對し餘りに同情の無い仕業を見て嫌忌の情に堪へかね其の山のようになつた蒲團には手を觸れる事もいやになつて、側にある小さな毛布を求めると賣人も叮嚀に其品物を取り扱ふて呉れました、私は一種の悲哀の情をもつて此處を出ま

した。

□江戸兒の意氣尊ぶべし

三越を出て西河岸に友達がありますので其處を訪ねやうとした處が、私はまだ西河岸などと云ふ處には行つた事がありませんので一向に見當がつきませんから、或る商店で尋ねますと、店に居つた者が夕方の忙がしいのにも係らず如何にも親切に教へて呉れました。教へられた儘に探かしましたが此の邊の地理に暗い私の事とて容易に分りません、丁度荷揚げをして居る人足の親分らしいのが居りましたからその人に尋ねますと其人には分らないとみえて、他の人足にきいてくれましたが、餘り瞭然とは分りませんでした併し兎に角委しく方角は教へて呉れました。其れから其の通りに行くに純粹の江戸兒を發揮して居る兄いと云ふ格の男に出會ひましたから又尋ねますと、實に氣持よく教へてくれ其上目につきにくい處だからと云ふて一町餘もある所をあともどりして一緒に其處の門の所まで連れて行つて呉れました。私は此時江戸兒の意氣を實に嬉しく感じました。

□眞の紳士淑女の要素は江戸兒にあり

前に述べた五人連の婦人は少なくとも教育に觸れて居る人達であるのに、同性の婦人に對してあまりの振舞のみならず、婦人の美德として最も尊重すべき同情とか謙遜とかの點を缺いて居るを見て自分の務め上からも考へさせられつゝ三越を出て教育とか修身道德などゝ云ふ話には緣の遠い寧ろ沒交渉である社會に於て、實に親切なる而も眞心ある態度に接し武士道の名殘りを見留めたやうな心持がして愉快でした。前の婦人連と比較して女子教育の不必要などと世間の叫を耳にするも當然ではあるまいかと心中窃に欺かざるを得ませんでした、又一方に於て眞の意味に於ける紳士淑女の精神は却て所謂下町の社會に於て見出されるのあではあるまいかと考へました。彼等の言語或は行動に於ては識者の目からは見苦しく見える點もあるでせうが其精神に至つては有名無實の教育を受けた人達よりも遙に優れて居るやうに思はれます。若し此等の人々に眞の宗教と徹底した智識とを施し永遠と云ふ觀念を持たせたならば眞に美はしい人格が出來はしまいかと深く感じました。私の日本橋に於る半日は誠に興味深いものでありました。

猶太人ニユーマーク氏の告白

二月四日午後六時より神田三崎會館にて猶太人ニユーマーク氏を中心として獨太人研究問題と云ふ近頃珍らしい集會が開かれた。開會前に最早階上階下立錐の地もないと云ふ盛況であつた。彼は未だ三十に滿たないと思はれる紅顏の青年、輝く平和な然し昵と見詰めて居ると云ひ知れぬ惱みと戰があるやうに思はれる顏、嗚呼誰か二千年の昔ユダヤの野にガリラヤの湖畔に人類の救を叫ばれ、ケドロンの谷に、ゲツセマネの園に血の汗を流して戰はれた基督を思はずに居られよう。左に揭ぐるは氏の講演の大意である。

世の初より神の選び給ひしイスラエル民族が、基督の救より洩れ、異邦人が却て救に入れられたと云ふ事は實に不思議な事である。私は自分が如何にして救はれたかと云ふ事を皆樣の前に證して亡び行く猶太民族の爲に祈つて頂き度い。私は倫敦に生れ幼い時から嚴格な猶太敎の敎を受け、基督敎は虛僞の宗敎、基督者は謀叛人であると信じて居つた。勿論私共の多くは聖書を持つて居らぬ。又持つて居つても讀まぬ。私共は舊約は歷史小說か冒險談で新約は僞の書であると信じて居つたのである。學校を出てから私は實業に就き六年前日本に渡り弟と共に横濱に住んで樂しい時を過した。然し一年後歐洲戰亂の起ると共に弟は歸國し私は神戶に移る樣になつた。異鄉に親しい友達も知人もない私は讀書に淋しさをまぎらせやうとして多くの書を讀んだ。勿論宗敎書類ではない。然し全能の神は惡魔でも己が働人となし給ふのである。實に申すも恥かしいやうな惡い本であつたが其中に「此世の中には一つ最高の力があるそれは我等を善の方に導かん

と常に働いて居る。これ即ち神である」之を讀んだ私は宇宙には確かに神が存在するものか否か存在するものとすれば自分は其れを確めねばならぬと思ひ、先づ舊約聖書を宿の主婦より借りて讀み初めた。讀んで行く中に自分は其美、其偉大なる書であるに驚かされた。然し全體を通じて受けた印象は神の怒と呪詛と云ふ事であつた。舊約の最終に「是我來りて詛をもて地を擊つ事なからん爲なり」と記してある。私は自分の求めて居る者を與へられず反て疑と不安に滿された。玆に新約書がある勿論自分はこんなものは信じはしない。然し段々讀んで行くとある強い力にうたれたのである。新約の最終の言葉に「願はくは主イエスの恩寵凡ての聖徒と共にあらん事を」である。私の頑迷なる心は碎かれた。私は膝まづいて悔の祈を捧げ主イエスの僕となつたのである。私の心は救の喜悦にあふれつゝも常になんとなく不安と悲しみの中にあつた。遂に意を決して神戸の淸き流れの中に過去の罪の身を沈めて聖き新なる光明の生涯に入つたのである。私がこの事を弟に打明けた時彼は驚いて、私の傍より飛びのき私の面に唾せんばかりに怒つて絶交を申渡した。同時に倫敦にある兩親の許に改宗の報をした。其時私の心には何物も奪ふ事の出來ぬ平和が來た。來らんとする迫害にも屈せざる力が與へられたのである。

弟は私を捨てた。遠く倫敦にある母は私の手紙を見て「あゝ愛する息子は基督信者になつた、あゝ彼は基督信者になつてしまつた」と三日間晝夜食せずに歎き通したそうである。多くの友達は皆私を捨てた。二年間は彼等より一回も音信を受けぬ。この間に益々この奇しき書に親しんだ。我救はれし恵を思ふと同時に同胞たる猶太人の上を思ふと泣かざるを得ない。トルコの配下にあつた聖地パレスタインは英國の手に渡り、首相ロイド・ヂョーヂは之を猶太人の手に返すと明言せられた。我々は之を喜んで居るが、實は不幸なることである。僞基督の下に國を建設し其惡政に長い間苦しむのである。而し

て再び主の來給ふ時迄其處に苦しみ、終に救はるゝこと能はざるに至る。世界には白色、黄色、黒色、赤色等の人種があるが、神がみそなはす時は只三つの人種しかない。第一基督信者は猶太人も日本人も歐洲人も皆この人種にて、基督再臨の日に主と共に國を造るもの、第二は猶太人、選ばれたる民でありながら、救はれざる者、第三異邦人救ひの時と機會を與へられつゝも拒みし者。

初に自分は財寶を神に捧げた。私は三百圓の俸給の中八十圓は生活費にあて他は神の爲に捧げた。又出來得る丈時を作り、友人間に個人傳道をなし、小冊子を印刷して配りなどした。然し自分は決してそれに滿足することは出來なかつた。今は斷然實業を捨てゝ英國に歸り、先づ第一に兩親兄弟を次に友人間にあまねく猶太人の間に私は献身的に傳道する積である。昔私が傳道者を輕蔑したあの十字街に立つて道を傳へよう。六月の日月を異郷に送つて歸る私を迎へて呉れる者は誰もない彼は輕蔑と嘲を以て私を見るであらう。猶太人は基督信者になる同胞を如何に烈しく迫害するかは諸君の想像には餘りある程である。私はこの爲に命を捨てるかも知れぬ。然し諸君の祈に依つてイスラエル民族の心が開かれると私は信ずる。日本は實に私の靈の誕生地である。心の故郷である、この地こそは我魂を養ひ育てまた終生忘るゝ事の出來ない印象をつくつた搖藍である。新しき生涯の第一頁はこの地より始まつたのである。私は諸君の祈と力添とに依つて同胞に福音を傳へん爲に英國に歸るのである。エルサレムの爲に祈れ、エルサレムを愛する者は榮ゆべし。

廣岡淺子夫人（續）

河井道子

詩篇に「エホバを畏るゝ者は獅子の如く勇まし」とありますが實際夫人は神を信じ、基督敎の救に預りて後、世界の不義、不德、不信に向つては獅子の如く勇ましく進まれました。誰の前にても恐るゝ事なく滔々と自分の信仰を告白し又自分の如く基督敎を信ぜよと常に勸められました。曾つて大阪の富豪と實業界の大立物と呼るゝ人々を自宅に招待し救世軍大佐山室軍平氏を聘せられて、罪と救と云ふ實際的の說敎をせられたそうであります。是を以ても夫人は何の憚かる所もなく、ポーロの我福音を述べ傳へられて憚る所なかつたと云ふ思想を中心とし又大擧傳道の時中國の某都會に赴かれた際、準備委員が夫人に會見して云ふには、此市は基督敎に對し頑固なる反對を持つて居るから、餘り基督敎說敎に渉らぬ樣にと願ひ出でし際、夫人は憤然として「それでは私はお話する必要がないからお斷りします」と云はれたのでどんなに委員が詫びても引留めても受入れられず直ちに其地を去られた事があります又或は學者連中の席に現はれし時、夫人は佛敎に造詣深いと云ふ博士に向ひ彼の僞善的素行を責め、且學問上に非ず靈性上に宗敎を奉ぜずばならぬ事を說き、同時に一度基督敎信徒たりしが熱さめたる學者に向ひ、其誤れるを訊し席上滔々と己が信仰を恐るゝ所なく述べられた事もあります。又愛國婦人會の理事にして大阪支部にては同會の中柱たり又奥村五百子氏の親友たりし點より、屢々將校に會見された事があります。或時など將校連に向ひ基督敎を臆する所なく述べ、又日本全國上下おしなべて此道に入る可き必要を說かれたと云ふ事は夫人御自身の口よりして申されました。斯る實例を擧げたならば枚擧に遑ありませぬ。

「イエスキリストに在る者は日々新なり」と云ふ

句は夫人に其實例を見ます、宗教に關する書物を讀まるゝ數の多い事、英書は之を人に讀ませて聞き、新刊は常に机上にのり、宗教に關する學說などは何時研究されしかと思ふ程絶えず新思想に接し居らるゝなど誰でも敬服の外ありませぬでした。或時ジヤワット博士の書物にて得た所があると記者が云ふと、直ちに其の書物を求めて吳れと云はれた事もあります。而して後進者にはもつと書物を讀まねばならぬ、勉强をしなければならぬ、研究をせよと奬勵されました。昨年あたりはブラウニングの詩集に親しまれ、詩人の宗教思想に悅服すると云はれました又宗教外の事情には元より精通されて、其等の研究をされた事は云ふ迄もありますまい。而し夫人が最も好まれたことは聖書の研究でありました。毎夏御殿場に於いて同志社の神學教授等を招き、數人の者を集めて新舊約の研究をされたのであります。常に云はるゝには哲學がどんなに深いと云ふても、聖書の一句に言ひ盡してある程聖書は意味深長である、日常生活にも是程適應する書はない、讀めば讀む程奥深い無盡藏である。自分は早くよりどうか人の爲に十分の一を用ゐる度と云ふ考へは基督教に入る前より願ふて居つたが、それが又ちやんと聖書に書いてあるではありませんか。マラキ三章「ひと神の物をぬすむことをせんやされど汝等は我物を盜めり汝等は又何に於いて汝のものを盜みしやと云へり十分の一および獻物においてなり。わが殿に食物あらしめんが爲に汝等什一をすべて我倉にたづさへ來れ、而して是をもて我を試みわが天の窓を開きて容るべき所なき迄に恩澤を汝等にそゝぐことを見るや否やを問ふべし」神に十分の一を捧げるならば、神がどれ程恩澤を與へ給ふかを試めして見ろと云はれたので、實に驚く可き眞理があつて、平素思ふて居る事と合體するので我知らず畏れ戰慄したのであります、聖書は斯の如く何に依らず執る可き方針を數へてあると話されたのは昨年の春でありました。

祈禱は夫人の生命でありましたらう、誰でも夫人

に近く交つて居つた人は、必ず祈禱と云ふことを耳にされたに相違ありませぬ、祈らなければ不可ぬ、祈らねば眞實でない、人間はどうしても一日に十五分は神に祈をせねばならぬと口癖のやうに云はれました。親しき信者の客が訪問される時に、別れに際して祈禱をされるのは恒例でありました。又夫人の祈禱に於いて練達を積まれたことは、會ふ度に氣が附いたのでありました。私は宮川牧師の美はしい祈禱に私の信仰を起さしたと云ふても宜しい。未だ信仰に未熟な時はあの樣な祈禱がしたいと云ふのが第一の望みであつて、祈禱の眞意を悟るによつて自身が發達する樣に感ぜられました。夫人の信仰の生涯は必ず一巻となつて世間に現はるゝ日がありませう。僅か一部分さへ知らざる者にしてもこの雜誌一部をうづめる材料をもつて居ります、而し紙數が許しません。

終りに附言し度い事は夫人が生を確信された事であります。或時云はれたので我々には必ず限りなき生命があるに相違ない、私は靈魂不滅を感ずる、如何となれば年老ふるに從ひ、私は體は不自由に衰へて參りますが精神は何處迄も進歩發達して行くものかしらと不思議なほどであります。之を押して考へると人間の魂は愈々進む可きもので、消えてしまふものではない事が解る、故に私は永生即ち來生を深く信ずるものであると。今や夫人の靈魂は神の下に愈々其光をそへ、美はしく成長されつゝある事と信じます。偲へば偲ふ程偉大なる人であり、地上に於ては夫人の感化は益々大きくなつて行きませう。一語で夫人の生涯を云ふならば勝利の生涯でありました。神は斯る方を吾等の中に七千年間もお置き下され又十年間基督教界の爲基督教婦人界の爲働かせ給ひし事も感謝致します。仄に承ると五年前大施術をされた後其病根去らず、出血なども往々あらせられしとの事なれと、其間日本全國に大傳道をし、壯者を凌ぐ勢をもつて神の境を絶叫されし事に對し感謝の念を以て夫人を送る次第であります。

「イエス曰ひけるは我は復生なり生命なり我を信ずる者は死ぬるとも生くべし」

瀬上領事夫人を想ふ

河井道子

一月二十三日朝東京の電車内で新聞を見ると、支那九江の瀬上領事が狂氣して妻子を慘殺したとの悲報が載つて居る。アッと我知らず聲を立てた。同夫妻から來た年賀狀に返事を出したのは數日前の事であつたが。

恰度十四ケ月以前に支那で風景明媚で有名な杭州の西湖に上海や杭州の敎友數名に案内されて行つた事がある。其時に西湖の畔眺望第一と稱される日本領事館に立寄ると、瀬上領事は上機嫌で迎へられ、事務を差置いて色々と歡待された、一見溫厚篤實な氣品に富んだ紳士で、外交官に有勝な華美な言行は少しも表はれない所謂玲瓏玉の如き好男子に見受け斯る領事を得た土地の人々を祝したのであつた。矢張自然の感化は強いものだ、斯る美はしい仙境に住はれると政治的な煩雑な仕事の中にも雅韻があるなと心の中で同氏を評した位であつた。どうしてあの溫雅な領事が狂氣したらう。狂氣したとて殺氣を表はすだらう。殺氣を表はしたとて彼の美はしい夫人と可愛らしい子女とを慘殺されたらう。何うしてかく／＼と自問に苦しんだ。恒子夫人もかの日に我々を歡迎して下された。此夫人も亦外交家の奥様には珍しい虛禮の虛榮に垢拔した、見るからして眞心のある婦人だと云ふ事が分つた。五分も經ぬうちに舊友の樣に打解けて色々の物語があつた中にも、忘れ得ぬは左の言葉である。

「私は廣島女學校に在學中基督敎に入りましたが、斯る地位に居りますと信仰も不知々々に冷却して參りました、處が此春學校から「女子靑年界」を呈送して下さつたので、開いて見ると實妹の感想が載つて居まして、彼女の信仰の進んで居るのを讀み相濟まぬ心地がしだしました。それから主人の妹が生來非常の我儘で皆で持てあましましたが、ふと信者に

なりましてから全く一變しましたので、姑もそれに感じて信者になりました。そうして今度はあべこべに私共に信仰を勸める樣になり。私も覺醒させられました。まあようこそこの遠方にお出下さいました。主人は別に反對でもありませんが、早く信者になる樣に私は祈つて居ります。どうぞ「女子青年界」を毎月お送り下さいまし。

それから又主人の妹は色々緣談を人が持込みましても信者でないと嫁がぬと云張つて居りますが、私共が斯く遠方でどうも出來ませんから又お世話になるかも知れません。相當の人がございましたらお願ひ申上ます。近頃は少々腰折ながら和歌をやつて居ります何でも先生がやつて見ろと申されたので勇氣附きました。斯く四方山の談話に時の移るのを忘れて居たが西湖見物が目的であつた故辭して去らんとするを、夫人は「どうぞ何卒お祈をしてお別れをして頂き度うございます」と引止められた、領事館で領事の前で祈を乞はれたなど今迄私の經驗にない、何と信仰のある御方かと深く〱敬服し且なつかしう思ひ涙ながらに祈つてお別れ致しました。門口で五歳許の可愛らしい孃ちやんが支那の婆やにおぶさつて、我等一行を珍らしげに見守つて居られたが、その孃ちやんも父君の刄でなくなつたとは何たる悲慘な事でせう。

領事は我等を親切にも湖上の公園即ち昔の宮殿迄態々案内され、四方の傳說を說明し、支那の歷史を語りなどされ、遂に小舟一艘を雇ひて我等を乘せる迄の世話をされた。あの領事今や狂人として鐵窓の下に死を待つより外に望なき人となりしか、私の書齋にある長細い西湖全景の寫眞は恒子夫人が只一人汽車迄見送り下されし節に賜ひしものである、それを毎日の樣にながめつゝ今は九江に移られ、この美しい勝地に居られないのだなど思ふて居たが、彼の君は最早地上になく天に移されたのである。而かも刄の道を通つて。

如何に過勞の結果とは云へ溫厚の紳士が狂人と變

じ妻子を殺すに至るとは、想像だに出來ぬが實際の出來事である、領事の心の奥底には彼さへ知らざりし恐ろしき殘忍の分子が潜んで居た。彼は平素、己を制する事がむづかしい人であつたに相違ない。彼がもし天の父なる神を愛し、エス基督の教を信じて受入れたなら決して〳〵狂人にはならなかつた。萬一なつたとも人を殺害するなどの惡力は枯死してしまつたは必然である。彼の家庭は地上の天國を聖化され得しものを、信仰がなかりし許でかゝる悲慘な事になつたのだと思へば思ふ程、人間は如何に立派な人物でも、學識、品性具備して居ても神なきものは何時狂ふかも知れぬ恐ろしいものであるを敎へられ、又一方には狂人でもエスを信じて眞面目な人になる事は聖書に澤山記してある通り今日も事實であるを一層深く味ふた。我等の日常生活に基督が必要とはこれである。嗚呼恒子夫人其愛兒等は永久に移られて、彼處よりして狂へる夫や、父の救はれん事を祈つて居られるであらう。

再び浦鹽斯徳に渡りて

河井道子

冬の浦潮航海は辛抱だと十月鳳山丸に乘つてゐた時、船長が談つた通りで、一月廿五日敦賀を出るや否や同行者の坂本もと子さんも私も廿八日浦潮港に着くまでは船室に横になつた切り、口も祿に利かない程であつた。廿七日の夕方入港すべきが、氷のため沖に淀泊して翌朝八時に徐々埠頭に横付にされたので始めて甲板に出てみると、よくも氷の海を越へて來たものと思ふ樣に海上一面が氷である。甲板のこゝそこには氷のつらゝがさがつてゐる。成程寒氣強いのだと氣付いたが、天氣は上々しかも地上に雪は僅しかないので、却て雪と雨とで寒むかつた敦賀の方が北方に思はれた。甲板から一生懸命になつて

見下しても、先着のミスガンターも國井綾子さんも見えない。其中に稅關の役人が甲板で荷物を調べだす、坂本さんは始めての事で、呆然たる樣子である手眞似で通關して、手眞似で荷を下さして、支那苦力の馬車に荷物を渡していざと云ふ處へ國井さんが見え。馬車の後をついて四五丁も步むと朝風に血色美しいガンター氏に遇ひ、御互に伴れ立ちて殆んど市はづれとも云ふべき寓居に着いた。此處は可成大な煉瓦造の裏手で入口は臺所からである。臺所に達するにも外側にある梯子段を昇つて二匹の大犬小犬を跨いで這入らねばならぬ、臺所の左側にある戶は家主の息子の部屋を示し正面の戶が我々の食堂客間居間凡てを兼ぬる十疊度位の部屋で、西向に窓が二ッあり東側に戶が二ッある。一戶は我々の小な寢室に開き一戶は家主の居間で、其間にペチカと云ふ露式の大なストーヴが天井まで貫いてゐる。壁は淡桃色で中央に飾の如く下つてゐる三ッの電氣傘と色の無理な配合を保ち、額緣つかぬ小な宗敎畫が三枚淋しげに張付てあり、枯かゝつた莖ばかりの植木鉢が二個窓框にのせてある、室の中央には古い可成大な卓が、より以上古い椅子三脚と、公園あたりによく見る長い一向以上の靑色のロハの腰掛とで取圍まれてゐる。今一脚のロハ腰掛には日本の夜具がむき出しに置てあるから、何したのと問へば女中が夜分此ベンチ二脚を合せて寢臺として此夜具でねるのだが戶棚も何もないから斯の通りとの返事、その女中は何處か勝手に出て行きまだ歸へらぬとかで、我等は鍵を見出すこと出來ず。其鍵がなくば寢室も只一の食物戶棚も開ける事が出來ぬわけで、先づ中央の室に荷物と共に空所のある處に暫時休息して女中を待つた。國井姉は外に出て、パンとソーセヂとを求めて來り、我々を歡待される中に、小柄な下品な露國の女中が這入て來て、喋々喃々としやべるので、氣を呑まれて仕舞ふ仕末。漸く寢室が開かれて見ると旅行用寢臺が二ッと全部の場所を占めて居る樣子此處にどうして最う一人も休めるか手品仕事に思は

れた。露式の部屋とは戸棚のないのが特色とか、全く四角な室に窓を開けたばかりなので、物の置場がない。其故止を得ず寢臺の下に食料品もあれば衣類も書類もあり靴も其に隣するわけである。洗面臺は椅子の中央の抜けたのに金盥を上手にはめ、背中のあたる木の處に手拭を掛けたのである。兎も角も、住むべき家のあるを感謝して最初より樂天家となりすます事に決心しなくては當地では何も出來ぬことを第一に知つたのである。

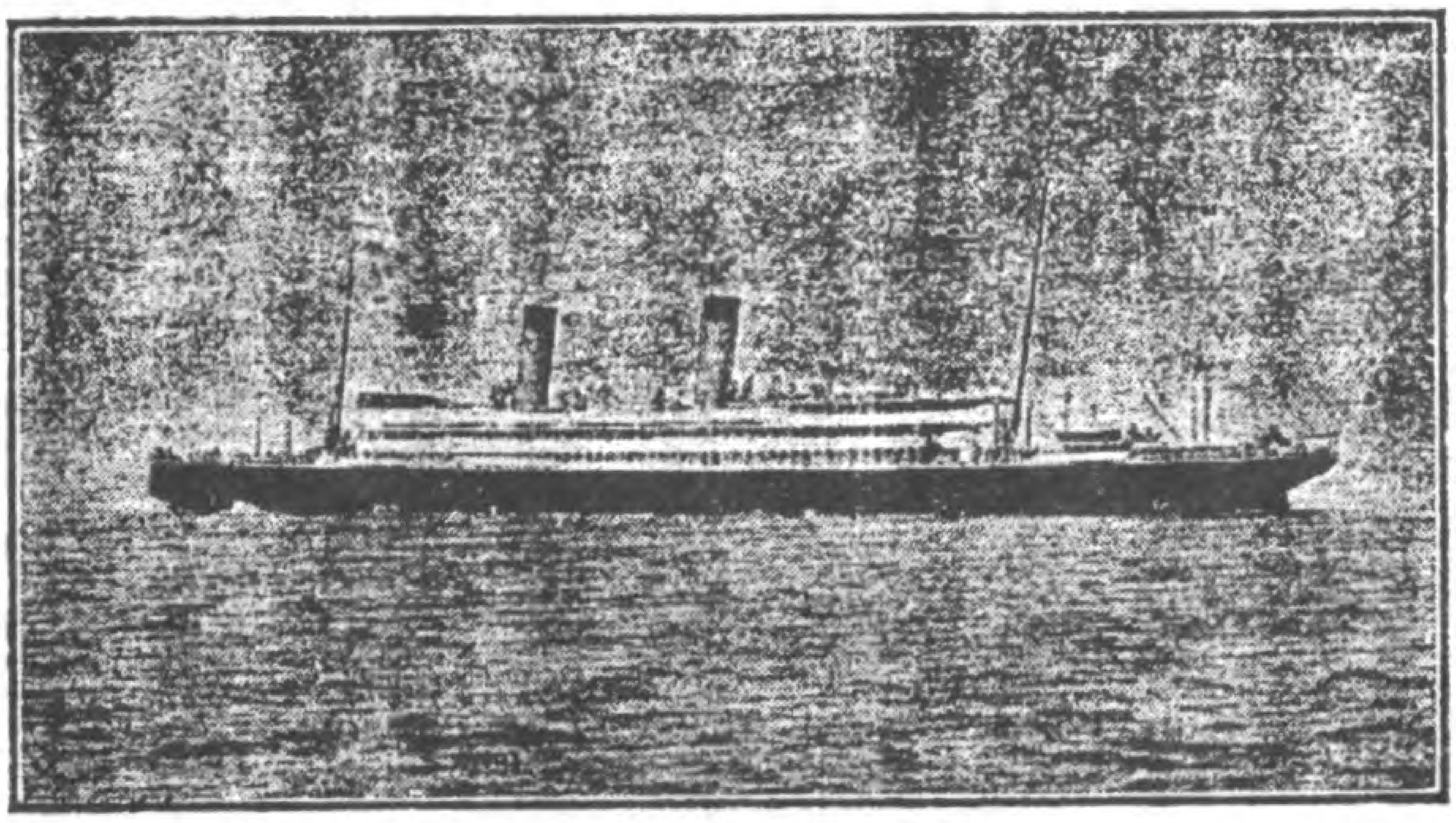
當地の家屋拂底なのは實に甚しい。旅館でも早から申込まねば到底室はない。相當に暮される收入のある家族でも、一間二間をやつとの事で借りるのでいくら金を出すと云ふたとて家も部屋もない。其故にかく市の中心より離れた邊鄙な處にでもよく部屋があつたと後より人々に感心されたが是も全く當市の信者なる石戸義一氏の盡心の御蔭である。此家主と云ふは露人で石戸氏の友人であり、且又新教の長老とか、態々我々に二間丈を借し與へられたのである。同氏の妻君は精神病の由にて同家ではあるが全く別居して、入口も違ひ、此處から通ずる路は外からよりない。其夫人と娘と、主人と息子とかく別に住居つてをるが食事はどうして居られるか一向に分からない。只毎朝我々が炊事をして居る臺所で湯をわかして主人は主人、息子は息子と藥鑵を別々の部屋に持つて行くのと、主人が時々脇に長いパンをかゝへて歸りくるをみるのみである。其で中央の室は主人の通行みちになるわけであるが、至極親切な正直らしい御爺さんであるから、我々もこうして居られる理由である。是が米國あたりで、しかも戰時でない時であれば、どんなにか不注意だとか、禮儀を破るとか評されるであらうとおもふが、戰時に家のない時は是位は御互に恕さねばならぬと思ふ。

第一讀者に告げたいことは、皆樣から頂戴した品々は其々避難民に後る樣當地の赤十社を通して其手配をした事である。玩具は一千五百個以上もあり子供等は其にて實に嬉しいクリスマスをしたとの由。

避難民の居る兵營に其を持運ばれ分配する處を私共は見る事の出來なかつたのは殘念であるが、當局者が分配したことと私にはなして禮を述べられし故此誌に傳へてをきない。次に一月の末に私共と一所に出た荷物は敦賀で止められまだ參らぬが、手荷物の中にあつた品や、東京女子青年會の會員方御手製の子供のズボンは私自身が露國の孤兒院に持ちゆき渡したし又毛絲で出來てゐた赤子の衣類や靴下なども同所の赤坊のために寄附した處大悅であつた事をも諸姉に傳へたい。此孤兒院と云ふのは市立であるが、戰時ゆゑ充分維持が出來ぬので、在留日本人間にても義捐金を募集して補助を計つて居る。同院は私共の住居から二町ばかりの處で、訪問には便利よろしい目下男兒五十三名、女兒四十一名、赤子(但捨子)三十名、老人二十九名で眺望美しい廣場にある數個の棟に收容されて居る。屋內は殺風景の處はあるが淸潔で規則よく、此不潔な浦潮市では珍しい事で有望に思ふ。人間はどうしても淸潔を貴まねばならない淸潔を無視る樣になると確に習慣、趣味、品性、人格が下向する時である、浦潮は水に乏しい點もあり寒國であるからでもあらうが、衞生と云ふ點に於ては、日本よりも劣つてゐて下水の流れ樣がなく、不淨場等の仕末は日本の方が遙によいと云ふべきである。日本だとて決して此等の點は進步はしてゐない。大道に下水が滔々と流れたり。客間から見たる處に不淨場があつたりであるから歐米の文明國からみると、實に不衞生極まるが、其以上に不潔であると云へば大概は想像が出來であらう。從がつて普通の人々が何となく不潔に見える、よく洗濯したものを着けてゐるかしらなど入らぬ事まで氣になり、其から品行や品性を連想して何となく淸潔が一般に乏しいとおもへる。斯る中に於ける同胞は餘程注意をせぬと下へ下へと引摺られて行くではあるまいか、己より高い者と比べずして卑いものと比べて彼等に勝る幾倍などゝ得意になつて居ると知らぬ中に己も其一員に同化されるではなからうか。人間はより高い者

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

東洋汽船株式會社



本社 東京市麴町區永樂町二丁目一番地（電話本局四〇八〇、四〇八一番 四九六一、一五三一番）

營業所 橫濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一 四四〇二、四四〇三番 四四〇四）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング 上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング マニラ チャコビルヂング、桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンクビルヂング）

北米航路（桑港、布哇、橫濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候溫和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、橫濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

を尊敬し愛慕する精神がなくては向上は出來ない、其處で基督を常に我理想とし彼に從ひ倣ふと云ふも彼に肖んが爲である。彼と肖る度が増す程、神の性質を持つのである。「我等今神の子たり後いかん未だ露はれず其現はれん時には必ず神に肖んことを知る凡そ神に由る此望をいだく者は其潔が如く自己を潔くす」とは聖書の言である。願くば我々の習慣風俗に於て靈智體共に潔くあり度いものであると、かくかいて居る手を見ると中々黑く汚いので可笑くなつてきたが、此黑いわけを談るも面白い事であらう。

マリヤと云ふ四十過ぎの露人の女中が我々のために雇はれてあつた。彼女はモスコーに居た時は家族も一所で女中も使用してゐたのだとの事だが、何處からみても上品の分子を見出すことが出來ない。當市で彼は避難民として救助され、我々の許にきたのである。國井姉はとても手に合はぬ者たと私が上陸した日に紹介されたが、如何かしらと思ふてゐた處其中國井姉も當地にある令姉病氣で其方に行かれ、今度は私が主人役でマリヤを使ふ事になつた。勿論ロシヤ語の出來ぬ主人ゆゑ彼女も困つたが國井姉は獨逸語、私は少々佛語ではなすと此女にはどうやら通ずるので便利である。其處で三ケ國の言葉が一句の中に含まるので笑はずには居られぬ。彼女は中々の喋舌で、何か辯解でもするときは露語を喃々とはなすが此方には馬耳東風である。彼女には淸潔の意味が分らない、衣服はいくらやつても汚いぼろをつけ、顏は何日洗つたか知らん頭髮は埃籠から屑綿でも拾つてくつ付けたと同樣な縺毛で、其を額の眞上にねぢあげてある。臺所道具が完備してゐない點は我側の落度ではあるが、彼女は皿を洗ふための金盥で自分の頭髮を洗ふやら、其內に食物を入れるやら皿に牛肉と漬物と野菜と一所に盛りて其儘にしておくし、出刃庖丁で薪を割り、柄は昔に失くする、ふきんもストプ拭も同じ布切でするし、汚水は石油鑵に一杯にならぬと捨てぬし、煮者の味はシャクシか

ら吸ふて見る等何から何まで汚い事だらけで、其他に我々の見えぬ處では何をするか一向にわからない朝は七時半頃でなくば起きないし、ストブの灰を取らずして火を焚かんとしては烟を一時間も出し八時半頃でも滅多に熱い茶を飲ましてくれない、そうしてストーブが惡い、石炭が惡いと小言だらけで、我々の朝飯は彼を待たず、パンを食べるのが例である。朝の用事が濟むと斷もせず出てゆく、或時は二時過に平氣でかへり、又或日の如きは午後四時に入湯にゆくとて出てゆき夜九時頃かへると云ふ有樣で手の付け樣がない、其度每に露語でペラ々々分らぬ申分をするからして忍耐するもよいが、彼が横着を此儘に見過すべきにあらねば、一日通譯人をたのみて、事のよしをきゝ又きかせたるに「私は女中する身分でない」と云ふからそれならば身に合ふ事をせよと云ふと「出る」と返事するので出てもよろしいと申と場所のあるまで二週間待つてくれと云ふ、よろしい行く處がなくばある迄此處にいてよしと何處までも避難民と思へば氣の毒ゆゑ親切にしたが、其一週間も我儘の仕方だいをして昨日ようやく出てゐつたのである。其から我々三人で日曜ではあつたが臺所の大掃除をした。食事も我々で仕度をする方が早くて好味ものが出來るし、清潔の點に於て心地がよいが何しろ石炭を使ふので手が直ちに黒くなる。度々洗ふが水は至極大切であるから、餘程注意をせぬと朝水屋の來ぬうちは顔も洗はれぬと遠慮もする、そこへ又よく切れぬ庖丁で鳥を料理したらば早速手に豆をこしらへたその上、ヂアムの代用品に製せんとてある果を求めて洗たらば、其汁で手が染まつて仕舞ふなど、マリヤの怨が手に祟をして居るかと思へる。」世帶持の下手なのを告白する樣な事ばかり記しては何の仕事をして居るかと問はれるであらう。上陸してから二週間は實に忍耐と、研究と、注目と、諸團體代表者の意見の拜聽とに暮したと云ふが適當であらう。露國の政府が動揺して居る通り當市の事業は何に依らず動揺し、從がつて人々の持論持說も

皆定りなく異口異述と云が可なりである。其故に或者は益々慈善博愛の仕事が爰に必要と説くと、隣では何の働も爰には不必要で、出來る丈早く外國人は立退いて、全國を露國人に渡すが最良策であると叫ぶ。日本人は大に露人には持てると得意がるがあると思ふと、大排斥をされて居るとて悲觀するのが側に居る。何れにも一理はあるが全部から推すと如何との問には誰も答へられない。又米國兵士の横行を大非難する日本人、日本人の不徳を鳴らす米國人、何れも御尤の次第で、此渦を通り越すには大人物でなくては到底出來ぬであらう。此混沌たる中にありて我等僅に三人の女子青年會代表者が何が出來るであらうかと自問自答せねばならぬ、それゆゑ研究注目、忍耐等に日を暮すも不得止る次第である。しかし我等は僅でも何かはしてゐる、一日たりとも無駄には送りはせぬ積である。幸にも日本兵站病院が近いから爰に訪問は度々する。病兵中手を負傷して手紙かけぬ者もあるので、彼等の代筆を始めたが大そう喜んでくれる。若し院長が私共に病院出入を自由に許可さるゝならば、我々は此處丈でもよい働が出來ると信仰する。

次には此病院には二週間づゝ交代で七八人の看護婦が此市の西極部にある日本赤十字病院から派出するのであるから、彼等の餘暇ある時には此家に招待して茶話會を開くため盡力中である。可笑しい事は一週間程以前に看護婦に會ひ、院長の親切で外出してもよいと御言葉をきいたから我々はすぐ日本町へ出かけ、小豆三斤、餅四斤(當地では何でも目方)箸一包、晒あん四袋を求め、おしるこの待遇をせんと大急で仕度し、再び病院にゆき看護婦方に明日御いで下さいませんかと願ふと、折惡しく明日は俄に交代となり本部へかへるとの事、失望しつゝも、それならば新しく派出なさる方々を御招きしましようと云ふて、歸宅すると、坂本さんはもう三斤の小豆を煮て居るので、おろしたとて仕方もないので煮て仕舞ひ、毎日朝晝夕と三度づゝ小豆攻めで、如何に小

豆好でも一寸閉口したのも面白い。小豆がまだある中と思ひ又病院にゆき新しい看護婦方を招きにいつたが、俄に患者が八十名も增へたので、外出が出來ないといはれ、いやはや小豆はどうしても我々の口にのみ這入らねばならぬ事となつた。此小豆はひねかしてなか々々不味ので砂糖を入れ鹽を入れ樣々にしたが終には鹽を入れ過ぎて、辛くて湯を幾杯もさす騷ぎ、一週間小豆の卓に上らぬ日はなかつたと申してよい。かく熱心に人々を招待せんと努力して居る事を誰が知るであらう。

明日二月十二日には珍客をこゝに御よびするので嬉しくてならない。昨日の船で御來浦された矯風會の林歌子女史、宮川靜枝姉、ミスクラゲットを主客として、常に親切にして下さる森、脇の兩姉にも來て戴く事となつた。食器も家具も整はぬ處を御見せするも、一興と信ずる。國井、坂本兩氏の料理は嘸かし浦潮一流以上のものであらう。

話が横途に這入つたが、我々此外に何をしたかと云ふと、日本男子青年會の倶樂部車二臺が、衞兵や凱旋兵の休憩所になつてゐる、其處は市街の極西端で、我々の家は極東端であるから、往來にはなか々々不便であるが、其處にゆき一車の內部に紙を貼る事や、兵士に茶を出す御手傳をも經驗のためしてみたが、今は又凱旋兵出發も一段落を告げた故左まで多忙でないときゝ中止した。

前に紹介した市立の露孤兒院を訪問した時に、何か御手傳が出來るかと尋ねた處、時々來て保育兒の世話を助けて貰ふも難有いと返事があつたから、時間の都合つき次第に午前は可成其處にゆく積であるつまり日露親善などの意味に於て、我々が何か露國人のために働くはよい事である。某氏の談話中左の一節を覺えてゐる。

「或市は日本軍の爲に安寧秩序を保つてゐるから、市民は感謝はして居るが、日本軍が目立ちて何か與行でもして市民を慰めたり、市の慈善事業等のために、しないものだから、何だか日露人間に親しみが

なく思はれる。處が米國軍は數も劣り、又大な意味に於て、市に盡しては居らぬが。時々音樂會をしたり、活動を見せたりしては市民を喜ばせるものだから、彼等の働の小のに割に大く思はれてゐる。何うしても市民のために目立つて盡すが大切である」と。

以上は適評であるか否かは知らないが、我々は少しでも此國の人に日本婦人も同情があると云ふ事丈を知らせんために働く機會を求めて居る。市の中央あたりに一軒を借受けて正々堂々と働けたらばとの野心もあつたが、其は今の場合到底望むべきではない。又奧深く內地に踏込んで、獨逸から歸へる捕虜の家族の世話をしたらばなど、飛んでもない不可能の事を申込まるゝ理想主義者もあるが、其に迷ふ樣な場合でもない。只祈りつゝ出來る範圍を廣めて實行的にしたいと願ふが、若し特別俄に其道を見出されなければ、我々は貴い時間と、金と人とを爰に費やさずして、可成早く日本にかへり。我々を待つ多の仕事に身を投ずべきだと信じて祈つて居る。もし二三年間も定住が出來るならば、確に基礎ある仕事だ出來とおもふが、戰時の際（世界は平和といへど露國はまだ戰時と云ふ時代也）應急の働を女が有效にせんには、日本に働く婦人の數と、金力とが大缺乏である事は誰にでも明白である。此二者がよし有るとしても今日の浦潮は國際問題や時局が日本婦人には不利にあたると斷言しやう。

以上は上陸して二週間中に得た感想や經驗の概略で、明日船が出るので大急ぎで浮び出る儘を記したのである。（二月十一日）

附加、浦潮斯德への郵税は上海へのと異り外國郵税即ち金拾錢であります、よく三錢の郵便切手を貼つてくるのがあり、受信者は罰税を出すはよいが、其樣な手紙は配達がおそくて一ヶ月もすてゝある事が度々だそうです。但軍事郵便は例外です。

ギヨン夫人傳

―ウフハム氏に據る―

森田松榮

「われはネブカドネザルの如く、野獸の中に住むべく、歡樂の玉座より投落されしやう思ひぬ」といふわびしい狀態に、ギヨン夫人は陷つた。是は彼女に罪あつての故ではなく、信仰生活により深く入らしめんとの神の攝理で、「神に就てのよろこび」は、「神自身」ではないことを、彼女に悟らせる爲の試練であつたらうが、當時の彼女は解し得なかつた。

キリスト者の信仰生活の、極めて初期に在つては、我々は、神に在つてよろこぶよりも、おのれのよろこびの中に喜び易いものである。神の聖旨が辛くても、それが慰めといふものを伴つてくる時は忍ばれやう。神の聖旨が、あらん限りの、苦さ、辛さのみを以て臨む時、單にそれが、「神から」といふ丈の理由で、彼女はそれを、愛し得るかどうか、といふ問題が彼女に來たのであつた。

信仰生活には、必ずよろこびが伴ふものであつて、是は、神より賜はるもの、神の嘉し給ふところのものである。然し玆に戒しめねばならないことは、信仰の對象を神、即ち神本來の善と聖、神の契約等をよろこぶ代りに、信仰の喜びそれ自身を對象としてよろこぶことである。神と、神の聖旨とは構はずに、神から戴く幸福ばかりを欲する。與へ給ふ聖主よりも、その賜物の方を上におく。この狀態が續いていくと、信仰は破滅のほかはない。

彼女はさま〴〵な試練に遇つたが、その眞中にゐても、今迄は、內的のよろこびと慰藉とを得てゐた。それは「神の賜物」であつて、「神自身」ではなかつた。それは生命の一附屬物で、生命其物ではなかつ

た。が、喜と慰藉とを剝奪された彼女は、まだそこ迄進んでゐなかつた、彼女がどんなに、悲しみ、恐れたかは想像にもあまる。彼女は此等を失つた時、一切を失つたと思つた。自分には以前のよろこびがない、これは、以前より信仰が墮ちた爲めである、これは又、何か自分に罪があつて、神を怒らせまつつた證據である、と獨りで決めて了つた。十字架に聖主と共にかゝるのは大なる恩寵である。彼女の心は、今や全く聖主のものとせられん爲に、聖主と一つにせられん爲に、十字架へいくところであつた、「神より出づる喜び」以上のもの、即「神自身」を與へられやうとしてゐたのであつたが、嗚呼人は、盲目である、彼女の心は暗くわびしかつた。

わが罪ゆゑと、思ひ惱んだ揚句、彼女は助言を求めに、故親友ジュランジュに紹介されだ牧師や、其他幾多の聖職に會つたが、博學、敬虔な人達も、眞に彼女の當時の狀態を理解することは出來ないで、或は戒め、或は責めるばかりであつた。さうでなくてさへ自分の罪の結果こんな狀態に陷つたものと思つてゐた彼女の意氣は益々銷沈して、人から責められれば却て誤解されたとて心に惱み、人から非難を受ければ、これぞわが當然と認めて、善い事を思つても、志しても、自分は僞善者ではないかと疑ふやうに、いぢけおびえる樣になつた。世に信仰の友から誤解される程の辛らさ、悲しさが、またとあらうか。然し、いかなる時に於ても、神は愛である。彼女に怒の鞭と思はれたことは、ほんとうは愛の鞭であつた。彼女が神の爲、後年大なる迫害をうけ、獄にまで投ぜられるに至つた頃、その子達に送つた言葉を見ると、往年の一時辛かつたわびしい信仰生活に於て、どんなに、彼女が其時の神の聖旨を悟つたかゞわかる。その言葉はかうである。「神が私達にのぞみ給ふところのものとならう、神の欲し給ふことをしやうといふ私の心の祈と、魂の熱い願と、志とは、感激しよろこべる熱情を伴なはない爲に、非常に無味乾燥なものと思はれても、それに拘らず、

其結果は無效でなく、空しく捧げられた祈と思つてはならないことを、あの時から、私は學んだ。かういふ祈りに、神が應へ給ふ時、私達は、その賜物は、私達の爲に最も善いものであるけれど、私達が無知なばかりに、好みも願ひもしないもの、といふことさへ憶えてゐれば、人々は私の言葉に同意するであらう……神の攝理の聖手により、いはゞ滅ぼし盡されん爲に、自我を棄てなければならぬ。この道をだに忠實にとるならば、神は之に對して、單に永遠の生命ばかりでなく、永遠の眞理であり給ふ……ところが、不幸なことは、人達は、神に導かれる爲に、自分を棄てる代りに、神を指導しやうとすることである。神が彼等を導くのをよしと思召すところへ、恭謙と柔順とを以て從つてゆく代りに、彼等は自分達が先に立つて、自分達の好きな方向へいかうとする。かゝるが故に單に神の賜物ばかりでなく、神自身をたのしみまつる爲に召された多くの人達は、そのたのしみ所として、神の賜物にとゞまり、そこに自分達の精神生活があるとする爲に、一生追求し乍ら、慰藉を味ふことが少ないのである」

暗く悲しく、苦く辛く思はれた生活のうちに、おのが欲する所をでなく、聖主の欲し給ふところを祈り、神の賜物でなく、神御自身を求めまつる樣に、日に月に、信仰に進む訓練を賜はつてゐた彼女を大きな變化が待つてゐた。

ギヨン氏の健康は、益すぐれなくなつて、此世を去る日も遠からず思はれた。前にも述べたが、氏は感情家で、愛憎が激しく、又よく急變した。それで妻に對しても、いつも平らかな氣分ばかりではなく、姑や侍女の策略によつて、妻に隨分辛くあたることもあつたが、又自分に復る時には、その非を悟つて、深く妻を愛した。

年齡、性格、幼時からの敎養、信仰の程度が、二人は餘りに異ひ過ぎてゐた。宗敎には多少の敬意は有つてゐたにせよ、より世俗的であつた夫と、世から益離れていくにつけ、愈信仰的になつていつ

た妻とが、互に物足らなさを感じたのは自然である。妻が自分よりも優秀だつたことは夫の誇でもあり、苦痛でもあつた。

夫の餘命の幾何もないのを知つた彼女は、萬難を排しても自分の權利を主張して、妻としての義務を、殘る所なく盡さう、と決心すると直に實行に懸つた。日夜病床に侍る優しい妻に對する夫の愛は昔に增して、最早夫妻の間を裂かうとする人達の術策は、何の效をも奏さなかつた。彼女は、自分の足らないことから、夫の氣を損じたことも、あつたに違ひないけれど、自分の本意からしたことは一度もないことを告げて、夫の赦を乞ふた。夫は深く感動して、卿に赦すどころか、自分こそ今迄濟まなかつた、赦して下さい、といつて喜んだ。彼等は聖別された自分達の愛を喜んだ。彼女は肉の衰へゆく夫の病床に跪いて、彼の靈の命の强められんことを偏ら祈り、又はかつたが、心盡しは空しからで、夫は信仰の平安を得、最後の聖餐を、謙り謹んで受けて、十二年同棲の愛妻と、二人の男兒、一人の女兒に先立つて、此世を去つた。彼女は二十八歳であつた。

かゞやくみすがたを

大橋房子

すみわたつた紺青の空がきらゝかな海面に同じ青さを映して一つに溶け合つた時には、底なしの青空も、淺瀬の水も、等しく無限の相を見せます。その空の青さも、空氣の上層に浮遊する微物が、太陽の光線を反射する爲だと聞けば、何だか不思議なやうな氣がします。

物其自身の色よりも、そのものに映る光と影とに重きをおくのは、著しい西洋畫の一特徵だと思ひます。而かも近代に於いては、物其自身の色よりも、それに映る光よりも、作家自身の見た感じに、又作

家自身の表現せんとするものに重きをおかれてゐるやうでございます。

人間も初めは自分をとりかこむ外界の事物に眼を注ぎました。萬物は水より成るとか、いや空氣だとか、地水火風だとか、いろんな理屈をつけて尤もらしく說きたてたものです。けれどかうした物質考究時代にも、物象の背後に神を見んとする宗敎的運動が芽してゐたやうでございます。而かも人間は次第にその眼を自分自身に注ぐやうになりました。萬物の存在を我に歸せんとする說さへ現れて、昔はあんなに眞面目くさつて考へた外界の事象をも、懷疑の眼を以て見ずには居られなくなりました。

人の一生も又かうした歷史を繰り返してゐます。子供の時には眼に入る物皆興味の對象です。好奇心に丸く開かれたその眼は、虫けら一つでも見のがすまいとして居ります。しかし一朝我に目覺めた青年は、徐々にその興味を內に移します。外界には眼を掩うて、唯一意、我何者ぞ！　と自分に問ひます。幸ひにして神を仰ぎ見る事を學ぶものもあります。自己解剖に耽つて煩悶に煩悶を重ねるものもあります。この眞劍な青年時代が、我執に捕はれ、方便說に軟化した老年時代に續くと思へば、學界の前途が何だか斯う脅かされるやうで心配です。

私達は神の子だといひます。天の使より少しくおとりて作られたるものだといひます。人間の中には神性のきらめきがあると申します。私は神がどんなものであるかよく知りませんけれど、イエスの中に映つた神の姿に隨喜するものです。そして眼が光なしには用をなさぬやうに、神は我々の靈にその光を與へて下さる方だと思つてゐます。

プリズムを通して見た太陽の光線は美しいにちがひありませんけれど、我々はなるほど丶肯いてはみるもの丶、それで太陽の本體が分つたとは云へますまい。丁度、空氣の上層にある微物が、自分の姿を隱して初めて無限の紺青の色を出すやうに、細い水玉が太陽の光を映して初めて天使の渡るといふ美し

い虹の橋をかけるやうに、葉末の露が朝の光に身を燒いて初めて寶石以上の美光を放つやうに、我々は人間に屬するものを燒き盡して、曇りない靈の鏡に神のみ姿を映す時にのみ、身を醉はしむるやうな恍惚たる法悦の中に神を體驗する事ができるのではありますまいか。その時こそ我々は神の靈感にわなゝきながら、此の世のものならぬ美光を放つ事が出來るのではありますまいか。

池の面に浮ぶ落葉をすくひ出す如く、汝の心に掩ひかゝるものを一重々々にはいでいつたら、汝は汝自身の姿を明かに見る事ができるであらうと、古の印度の聖哲が申したさうです。之れと同じ譬喩をベルグソンが内省の必要を説く場合につかつてゐると申します。心を隱す雲を拂ひのけたら、其處に我の姿が出て來ないとは申しません。内省の結果は内在の神に遭遇するでありませう。けれど水の中は暗くはないでせうか。いくら深いにしろ、水底までは知れたるものではありますまいか。私は小さな池の中に苦しい思ひをしてもぐり込んで居たくありません。降りかゝる落葉を拂ひのけたら、其處に無窮の空を映してみたうございます。よしあまりのまぶしさに自分は眼をつぶつても、輝きわたる陽の榮光に心ゆくばかり溶し度うございます。「もはや我生けるにあらず、キリスト我にありて生けるなり」と叫んだパウロは、此の光り輝く白熱境を體驗してゐたのではありますまいか。

私はいつもかうした白熱境を憧憬れつゞけてゐます。私は眞理に生きて自由を得たいのです。小さな自我を殺して、御旨のまゝに生き度いのです。けれどもそんなら何が眞理であるか、どういふ事が御旨のまゝになるのかといふ點にきて、私はいつでも行きつまつてしまひます。

「起り來る一切の事が、起り來るがまゝに來らんことを願へよ」とエピクテータスは申しました。でも私は安價なあきらめに陷り度くありません。音もなくめぐりめぐる機械の一小部分になりますます氣に

もなれません。西の國の人は早くから自由意志といふ言葉を亂用しました。若し謂ふところの自由意志なるものが、神に反するの自由をも含むものなら、私はすみやかにそれを棄てゝしまひ度うございます。自由意志といふやうなものがもし我々に與へられてゐるなら、私はそれを與へて下すつた神の御意のまゝに用ひていただき度いのです。

紺青の空が木の間に光つてゐます。日沒の陽を水平に受けた木の葉が金色に輝いてゐます。やがて澄み渡つた夕暮の空に、銀色の星が美しい輝きを見せ初めるでせう。あゝ、私はどうしたら、神のみ聲に調合せて、かゞやくみすがたをそのまゝにうつすことができるのでせう。

東京女子青年會の働き

○　（中西司娜記）

教育部　此頃の流行感冒で諸組に來られる姉妹方も大分お惱みの樣でしたが、一月二月の出席生徒數は、英語へ七十八名、西洋料理へ二十七人、タイプライターへ十人、生花へ六人、合計百二十一人でございます。

英語の組は午後の組三、夜の組二、會話專修科一で六組あります。女學校初年の方、專門學校の方、專門學校へ入學準備の方、お家庭を持たるゝ方など樣々の方が御一緒で皆親しく熱心に御勉强です。譯讀、文法などございますが、中にも始めは、ちつとも語り合ふ事の出來なかつた生徒と、色々思想交換の出來て來る會話教師ミス、ダニングは大喜びでをられます。又每水曜日授業時間の前に有志の方々の爲聖書の組を致してをります。

ミス、パタソンの西洋料理は手輕な日本人向の經濟的のものを御教へ申すので、大歡迎でございます。短期にまとまつた一通の西洋料理を御教へする十回講習も、昨年來數回致しましたが、一月二月にディナー講習二組、ランチ講習一組を致しました。四月からは又新しいディナー講習、ランチ講習、フ

ンシーデイシ（菓子。デザート、飲料水等）講習を開きます。此樣な料理會のある事を會員諸姉がお友人に御吹聽下さる事を願ます。

昨年九月開催のタイプライター科は、ミスガンター、堀順子姉とが懇切に教授されてをりますが、此二月までに、三人の方は卒業されて仕事を得て働いてをられます。

青年會では英語、タイプライターの如き外國のものを御教へするばかりでなく純日本の生花も御教へ致します。此頃は數名の西洋の方まで交つて學んでをられます。

大正八年第一回英語社交會は一月二十五日午後六時に開かれました。雨模樣の寒い日なのにも係らず三十餘名の出席者がありました。選ばれた英語社交會役員の紹介があり、如何にして此の會が知識的、社交的な最有益な機關たる事が出來るかにつき相談があり、つゞいて有名な雜誌記者ウイリアム博士の七方面より見た聖書の價値につき力あるしんみりしたお話がありました。此後毎月第一土曜日の夜集る事と致しました。我國へ英、米の新客を迎へた時には出來るだけお招ぎしお話を伺ひ、相知る機會を作り又時にはお互に問題を研究したり無邪氣な英語のゲームなども致し度いと存じますから、どなたでも英語を前にお學びになつた方、今學びつゝある方は是非御いで下さい。

○

（渡邊百合記）

學生部　短い二月を上手に用ふと云ふので學生部では先づ一日（土曜日）に親睦會を開きました。定刻の二時には會場は百五十餘名の元氣の女學生で滿されました。この盛會の樣子を載せ度いのですが、紙面に限りあるので殘念ながら本號には掲載致されません。

五日の學生委員會では苦學生援助の事につき、又支那女學生に私共の爲すべき事、此二問題を相談致しました。

一月始まりました信者の先生方の會は、八日土曜

日の夜開き大雪にも係らず、數人の先生方が出席されました。信者の先生方が一つの大きな團體をなし學校に起る種々の問題困難を共に考へ共に助け合つて、信者の教師として責任を全うし度と熱心に協議されました。有益な强き會が出來る事と嬉しく存じます。

五日から十日迄の富士見町敎會主催の金森先生の大演說會には青年會に出入する學生も多數參り、決心されし人も多く感謝致して居ります。

十九日水曜日は女醫學校の休日なので、同學校の決心者を（金森先生の集會にて）會館に招き、眞面目な讃美歌やお話の後で種々のゲームなどして樂しく遊びました。

二十二日は、市內の支那婦人、女學生の處に親睦會二十三日には萬國學生祈禱日の主意にかなふやう大集會を催す事など此月にはなか〳〵澤山に集會がございました。

東京市部の働き　（鈴木記）

去る二月七日午後五時半より本館內に市部委員會を久方振りに開きました。殆ど一ヶ年間休止して居りました働を再び始むる爲に、委員には川澄のぶ子、左近まつ子、古澤香子、綿谷禮利子、高田とし子、山室ひな子、淺井治子、海老名信子、平山信子、川名とよ子の諸姉にお願申しました。議決されました事柄は當部の目的として繁雜な業務にたづさり居る商館事務員、電話交換手、看護婦及女中等の爲に修養慰安の法を講じ倘進んで主婦各自の向上發達につとめ奉仕の念を養ふにつとむる事。

修養の法＝講演會―聖書研究會―仕事會
學習會―家庭會

慰安の法＝親睦會―娯樂會―競技會

等を設け其歩を進めると云ふのであります。それで先づ第一に主婦方の爲に家庭會を開く事に致しました。來三月中旬頃に出獄人保護の爲め大に盡され且不良少年少女に對し種々御經驗のあらるゝ原胤昭氏に御依賴して其方面のお話をして頂く樣に致しました。引き續き女中慰安會を同月下旬に開催すると云ふお話になつて居ります。何れ御報知申上ますが

其折は出發第一步より力強くあらしむる爲、皆樣の特別なる御援助の程をお願ひ致します。尙聖書研究に日曜學校にポツリ〳〵と働き始めました。恰度舊冬に種子の播かれた畑をたどりつゝ春の芽生を待つ樣な不安と期待と希望とに胸をワナ〳〵させながら。是等働の爲皆樣の御祈をお願ひいたします。

横濱女子青年會

新しき力を仰ぎ求めて會員增加運動を開始いたしました。また一方古き會員を失はぬ樣に親しみを厚くいたす爲め訪問を始めまして以來日々少々なりともよき實を與へられて居ります。

一月二十七日午後六時より會社に御勤めの諸姉の爲め新年親睦會を開催いたし樂しく語り遊び夕食を共にいたしました。會館を開き誘惑多き中に働かるゝ諸姉の避難所と致度く會の充實を計り居ります。

寄宿舍。只今は渡米婦人や西洋の暫時のお客樣でほとんど滿員で御座いますロシヤから二十日ばかり前にのがれてまゐられし方英國の方米國の方と種々で御座います。心から親切にいと小さき事をも主の爲め爲す好機と感謝して居ります。

二月十七日より三日間ブックマン氏に講演を御願ひいたしました各集に出席いたしたるもの二十餘名小さけれど誠に力に滿ちた豐かな集會でした。各自靈的に一大覺醒を與へられし事と信じます。「爾曹われを離るゝ時は何事をも行し能はざればなり。」熱き祈の背後には力ある實の豐かな働がなされます新たに聖書を讀み直し新たに祈り直して進み度いと思ひます。

關西便り

（山本琴子記）

〇大阪基督教界の活動

東洋一と誇つて居る大阪中の島、中央公會堂は、昨年の秋落成を終つて間もなく、逸早く市内各教會聯合の休戰祝賀大演說會が催され、山室軍平氏、吉野作造博士などの應援を受けて、靈戰布告があつて以

來、眞に幾度か基界の戰場として用ゐられた。……

あたかも靈的にねむつて居る。

正月に入つて、內村鑑三氏等下阪せられ、基督再臨問題演說會があつて、各方面に各種の影響を及ぼして居る如くきゝ及んだ。

又時局宣言大演說會なるものも同じく、公會堂に開かれ海老名彈正氏、宮川經輝氏等の演說があり、共に數千人の聽衆を得て居る。

尙ブックマン氏個人傳道法宣傳の集會の一部も、公會堂の一室で開かれた。

其他、各教會が其必要に應じて戰鬪して居る事は共に我等の意を强する處である。これ等に對する神の導きのくしくして、豐かなる事を信じ且感謝して居る。

○大阪婦人集會場の必要

大阪は、教育あり、見識あり、伎倆ある多くの婦人を有して居る、然し此等の婦人をして、其持てるものを發揮し、活動せしむ可き何等機關のない事は我々大阪婦人の非常に殘念に思ふ處である。

婦人の手によつてのみ經營せられて居る建物があつて各階級の婦人達の修養に研究に社交に、又健全なる娛樂に用ゐらるゝ事が出來たならばと思ふ。

女子青年會が卒先して其場所を供給せられたらばとは吾々の願ひである。

□萬國日曜學校大會委員會　二月四日神田青年會館にて小崎牧師司會にて開會、聖書朗讀、祈禱、奏樂、終りて明年に開かる可き萬國日曜學校大會準備につき協議あり副委員長は內外人二名づゝ指命委員指定する事に決し、其他經費等につき協議し、茶菓を共にして散會、來會者約五十名。

□ローズヴェルト氏葬儀　前大統領ローズヴェルト氏の葬儀は一月八日雪の日に營まれ、崇嚴に虛飾にながれたる事徵塵もなく、奏樂だになくて約三十分には全部の式を終れりと。世界改造する可き今日學ぶべきことならずや。

落穂集

□**葬式虚禮廢止**　葬式に於ても、折角贈つた立派な花が、翌日はお寺から、再び商賣人の手に賣られるのが常例である、會葬するものも一向哀悼謹愼の情があるではなく、物を食ふ、そして食ひ物が出ないと不平を鳴らすといふ有様である。中には葬式に列するのは自分を人に見て貰ひに行く位に考へて居る向もあるとか、是では一面識も無い者が會葬するのも不思議ではない、近頃葬式を出す前に棺前告別式を行つて知人一同の燒香を乞ふことが流行し始めたが、之は誠に良い思ひ付きで、之で葬式を簡單にすることが出來るやうになれば自他共に非常な幸福であると信ずる。（報知新聞轉載）

□**特別大傳道講演會**　歐洲戰爭は其終局豫期以上の好果を告げ、世界は今や改造されんとしつゝある今日この日本に神の國を建設せんとて、富士見町教會は昨年十月以來會員協力し大傳道をなさんと田川大吉郎委員長の下に準備怠りなく二月五日より六日間神田美士代町青年會館に於いて、金森通倫師を聘し連夜大講演會を開きたり、會員一名四百枚の廣告を一日四十枚づゝ一日より十日間東京市中に撒き約一萬人の聽衆を得んとせり。金森師は二月一日より青年會館に籠り、一週間斷食をなして壇上に立たれ神、罪、救につき毎夜二時間に渡れる大説教をなされたり。第一回は會衆八百餘人なりしも日を重ぬるに從ひて多く最後の夜の如きは、階上階下立錐の地なく講壇上迄座して金森師を取かこめり。恰も基督金森師に降り給ひし如く師よりは一種光明の輝やきて、會衆は靜まり、時しも惡性感冒流行なりしにも係らず此處には咳聲だに聞えず、二千年の昔ヨルダンの川の水を斷ち給ひし神の御業の現はるゝかの如く、一種云ひ難きの喜悦と敬虔の念に滿され委員は只々一人も多く救はるゝやうにと祈願を捧ぐるのみなりき。六日間にわたり聽集は一萬には滿たざりしも、一萬人の聽衆を得て決心者は一割五分を得たきも

或は希望の餘りに大なるやを懸念したるにも係らず、決心者は實に三千六十一名にして、三日間の歡迎會にて洗禮を志願せしもの三百廿三人との事實を見せられて誰か神の存在を疑ふ可き。私等信徒は近く我國の救はるゝ事を信じ只神に感謝するのみ。

□**白國皇后陛下より徽章**　我貴婦人連の組織されし白國同情會も一段落を告げし爲白耳義政府よりエリザベス皇后陛下の御肖像を浮かしエリサベス、デベルヂユと記され、裏面には慈善の表徴たる白衣の看護婦が燈火に對して居る圖がある銅色の徽章を我盡力されし貴婦人方に贈られたり。

□**憲法發布三十年記念**　二月十一日青山原頭に八百人の議員集まり祝賀會催さる。

□**流行性感冒**　上流下流を問はず人類を一掃せんとするかの如き猛惡なる感冒は二週間に府下に一千三百人の死亡者を出したり。名門にもこの災に罹られし方々多く近くは大山侯爵母堂、日清戰爭の勇將福島大將、日本畫の大家寺崎廣業畫伯等あり惜みても餘あり。

□**東京女子青年會へ寄附**　流行性感冒にて妻子を共に失はれたる加藤冬作氏は東京女子青年會に金五十圓を寄附せらる。

□**成瀬校長**　日本女子大學校長成瀬仁藏氏は病の癒えざるを悟り病苦をしのび、一日講堂に生徒を集め告別式を行はれ、麻生氏を新校長とされたり。

□**津田梅子女史辭任**　昨年來御病氣にて路加病院にて加養せられつゝありし女子英學塾長津田梅子女史は全然辭任され、辻松子夫人塾長代理とならる。

□**議會禮拜日**　二月十六日朝富士見町教會に於て議會禮拜を守りたり七名の代議士列席せらる、齋藤宇一郎氏の聖書朗讀、井深梶之助氏の祈禱、植村牧師の『議員等は凡て神の宮仕への心を持ち又國民に仕へる心懸けを有つて至誠と共に任務を果さねばならぬ』旨の簡單なる說敎あり江原氏の祈禱を以て閉會せり。

「女子青年界」定價及廣告料

定價（郵税）	内地	海外
一部	金十錢	金拾三錢
一年前金	壹圓	金壹圓四拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正七年二月廿六日印刷納本
大正八年三月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會　電話本局四九八〇　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子

印刷人　芝區愛宕山和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　右同　三成舍

The three rooms at the association that are open for lodgers are at the present full. One room is occupied by Dr. and Mrs. Rowland of Sapporo, who are on their way to America. In another room two Russian women are living and will remain until they can find suitable work. Tne third room is occupied by Miss Sharland, an English woman, who teaches English to Russians.

Osaka Notes.

Osaka Association is at last ready for congratulations upon having its first president, Mrs. Yasuko Asai, who has been first on the Organizing Committee and then on the Board as vice-president, consented the middle of January to assume the duties of president, and the Association at last feels that it is fully organized and ready for business.

The loss of Madam Hirooka is being felt more deeply here than could be possible anywhere else in the Association. As chairman of the organization committee she gave largely of her time and influence and it is due to her that the Association is well started on its career at this time. On February fourteenth, just one month from the time of her going a service was held at the Association in her memory and for the first time the Association members met as a body. Miss Tristram, and Mrs. Sasaki spoke of Madam Hirooka's life and her work in the Association and for young women, and Mrs. Hannaford, who as Miss Emerson, started the first work in Osaka, sang, Miss Yamamoto spoke of the work of the Association for the past year and Mrs. Hoshino of the plans for the future that the Association might fulfil Madam Hirookas ideal for it.

Classes are meeting as usual and a French class and one in flower arrangement have been added.

"We are dying for news. The is an old newspaper, Japan Advertiser of December 13th here that is being passed all over the city and has to be returned to the owner! We simply cannot get news."

Tokyo Association

In order to follow up the course on personal evangelism given by Mr. Bookman in December to the Christian teachers in mission and government schools, a number of teachers met, at the invitation of the Tokyo association, had supper together, and discussed informaily some of the paoblems of the Christian teacher. It was decided that they meet once each month for discussion and to formulate plans for personal work among their students.

The English Speaking Society held its regular meeting on the 25th of January, and had the pleasure of hearing an address from Dr. Williams, the editor of the Trans Pacific magazine, about to be published, on the subjet "Reasons for Reading the Bible from a Journalist's Point of View." The society was regularly organized with Miss Koto Yamada, a graduate of Vassar College and teacher at Eigaku Jiku (Miss Tsuda's School) as the president.

At the Sunday monthly afternoon meeting January 19th Mr. Tagawa spoke to about seventy girls.

Mrs. Suzuki, a graduate of the Japanese Women's University and a former teacher in a mission school, has come on the staff of the Tokyo association as city secretary. Her special interest will be girls in offices, telephone exchanges, nurses, and the supervision of the five Sunday Schools that are conducted by the association in the hostels, secretarys' homes, and the central association building.

The first Saturday in February the usual party for students was arranged for and over 100 enjoyed the games and music.

Yokohama Association.

A New Year's party for members and friends was held at the Association February 1st. Mr. Tsutsumi, teacher in the school for delinquent children in Tokyo, gave a very interesting and dramatic talk. This was followed by a little play in English, "Little Red Riding Hood," acted by the members of the little children's English class that meets at the association every Saturday. The rest of the afternoon was given over to games and refreshments.

A very genrous gift of a typewriter has been made to the association from the American Trading Co. through the kindness of Mr. Blake. This machine will be used by the girls in lerrning to type.

Our sympathy goes out to Mrs. Nishikawa, one of our Committee members in the loss of her husband from influenza. The Christian community has lost a very active and generous man. The association also will feel his loss for he was very generous to us, not only with his money, but also with his sympathy and time.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volrme XVI   March 1919   Number 3

We are very proud of the showing made by the different asso ciations in the matter of sending toys to Siberia to make the un fortunate little children in Vladivostok happy. We sent over enough toys for more than 1500 children and they were delivered on the Russian Christmas days. Dolls were by far the most popular gift with both girls any boys. We saw these children three days after Christmas and they were still carring the dollies and mechanical toys around with them wherever they went. In addition to toys the friends and members of the association throughout Japan sent in enough clothes to fill twenty-two boxes and four kori (large packing cases).

A letter received from Miss Mathew Feb. 21st and written January 15th from Omsk reads in part as follows:

"We are probably starting within an hour or two. Our things are all on this fourth class car ready, and as soon as we get a chance to be attached to a train we start. Gertrude Heywood and Alice Cary stop at Novonikolaysk, and Amy McCowan, Ida Appen. zeller, Mrs. Stier and I go on to Tomsk. We are supposed to start work in those places, and those of us in Tomsk are to work one other town, Taiga, three hours away, as well as Tomsk. Tomsk has 6,000 refugess there and typhus increasing rapidly, amongst the children especially. We are going to these places in response to urgent telegrams from the America Consuls in each place. We are not taking a medical unit with either gronp, and that we feel we should surely have. Our plan is if possible to get doctors and nurses, Russians in each place, and then get the work started as soon as possible. This unit has had to spend just two months in getting to the place where we are to work and most of the girls have to get back by May 1st, so that our work will be preleminary but solid I hope.

"To-day they say it is 62 below. Two days ago I froze the bridge of my nose driving into the city in a sleigh. It didn't hurt, and I did not know it until my nose peeled off at night. Amy McKowan had the same experience. We both have "new skin" on our noses. I wish you could see us togged,—heavy felt boots up to our knees and army hats, coats and gloves and after we have been out for a few minutes ones hair is all white with hoar frost. Its great, this weather, and beautiful with snow all over the trees and hoar frost everywhere. The cathedrals are so beautiful, with domes and spires everywhere.

整腸常用劑

LACTOSTASE
ラクトスターゼ

本劑は腸内の腐敗醱酵を防ぎ腸内に發生する各種病原菌の繁殖を阻止し且つ之れを死滅せしむる作用あるが故に腸加答兒及び其の他の腸疾患皮膚病及便秘等の豫防治癒の效顯著なり又常に本劑を服用すれば健康を保持増進し長壽の福を得べしとは斯界大家の唱導するところなり

粉末、錠劑、凝乳調製用ラクトスターゼブイヨン等あり、各地藥舖にて販賣す。

▲本劑に關する文獻御申越次第進呈す。

内服用粉末十四瓦金八拾錢、二十八瓦金壹圓五拾錢、同錠劑五十錠金五拾錢、ブイヨン六瓦金拾貳錢、

東京室町

三共株式會社

女子青年界第拾六卷第三號（每月一回一日發行）
大正八年二月二十六日印刷納本　大正八年三月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可